鎌倉女子大学

2026 大学院案内

| 児童学研究科 児童学専攻 |

Kamakura Women's University
Graduate School
Guide Book 2026

Kamakura Women's University
Graduate School

〒247-8512 神奈川県鎌倉市大船6丁目1番3号

TEL 0467-44-2111（代表）
0467-44-2117（入試・広報センター）

HP https://www.kamakura-u.ac.jp

Contents

学長Message／研究科長Message …… 01

鎌倉女子大学大学院の3つのポリシー
／児童学研究科の3つのポリシー …… 02

卒業生Interview ー 大学院から広がる未来 ー …… 03

鎌倉女子大学大学院の4つの特徴 …… 04

3つの研究科目群（クラスター） …… 05

修了までの履修と研究（修士論文）の指針
／主な修士論文題目 …… 06

研究生活の拠点
／神奈川県内の大学間における学術交流 …… 07

児童学専攻共通必修科目 …… 08

在学生Interview ー 大学院で学びを深める ー …… 09

児童学総合研究科目群（クラスター） …… 10

子ども心理学研究科目群（クラスター） …… 12

学校教育学研究科目群（クラスター） …… 14

授業科目の概要 …… 16

取得可能な免許・資格／公認心理師について …… 22

学部教職課程の履修について …… 23

担当教員プロフィール・研究テーマ …… 24

学費・その他の納入金／奨学金／授業料後払い制度 …… 27

募集要項（概要） …… 28

Access＆Map …… 29

学長 Message

学びの扉をたたく人たちへ

理事長・学長 福井 一光

「大学は、研究者と学生との共同体の中で真理を探求するという課題を担っております。大学は、学校でありますが、しかし独自の学校であります。大学にあっては、授業を受けるだけでなく、学生も研究に参加し、それによって自分の生活を規定することになる学問的な教養を獲得すべきなのです。学生は、理念に従って自立的な、自己責任的な、自らの教師に批判的についていく思索者なのです」。カール・ヤスパース著『大学の理念』／福井一光訳（理想社）

大学院における教師と院生の本質的関係と自らの学問と研鑽の進むべき方向を、これほど明快に言い当てている言葉はありません。この20世紀の賢者の言葉を真摯に実践しようと努力する学習意欲に燃える院生諸君を歓迎します。

児童をめぐる高度の理論および実践研究をめざして設立された大学院児童学研究科児童学専攻（児童学総合研究科目群・子ども心理学研究科目群・学校教育学研究科目群）は、次の4つの性格特徴を挙げることができます。

❶ 高度の研究力と教授力、また現代という時代の把捉力をもった、熱情をもち、人間性に富んだ優れた教授陣を擁していること。

❷ 最新の施設・設備・装置を活用できる研究環境と、研究の疲れをリフレッシュすることのできる緑あふれる教育環境を擁していること。

❸ 実践学を旨とする児童学の教育研究に相応しい、大学に併設される高等部・中等部・初等部・幼稚部という一貫した教育現場を擁していること。

❹ 多様化する現代の問題状況とそれに呼応する多彩な院生の問題意識、また院生各自の効率的なコースワークに対応したカリキュラムを擁していること。

“Who knocks at the door of learning?”という言葉がありますが、勉学に打ち込むことを通して自らの知と心を磨き、鎌倉女子大学の教育の理念である「感謝と奉仕」に生きようと覚悟する者こそ、本大学院の学びの扉を是非たたいてくださることを願っています。

研究科長 Message

自らを大きく成長させるかけがえのない2年間に

児童学研究科長 教授 小国 美也子

鎌倉女子大学大学院では、大学や社会で培った知識、技術、経験などを土台にして、さらに高い能力を身に付けると同時に、アカデミックな研究を行います。その研究および学修を土台にして、修了後は社会の中で輝く女性になってほしいと思います。2年間は短いですが、充実した、そして自分を大きく成長させるかけがえのない2年間です。大学院の先生方と院生が、研究者として協力し合い、共に研究していく体験は、大学では経験できないものです。

鎌倉女子大学大学院の3つのポリシー

使命・目的

鎌倉女子大学大学院は、鎌倉女子大学学則第6条第2項の規定に基づき、鎌倉女子大学建学の精神に則り、学部教育の基礎の上に、高度にして専門的な学術の理論及び応用を教授研究することを通じて、精深な学識と専攻分野における研究能力を養い、以って人類の福祉及び文化の向上進展に寄与することを目的とする。

ディプロマポリシー（修了認定・学位授与の方針）

鎌倉女子大学大学院は、「教育の理念（感謝と奉仕に生きる人づくり）」「教育の目標（科学的教養の向上と優雅な性情の涵養）」「教育の姿勢（人・物・時を大切に）」「教育の方法（ぞうきんと辞書をもって学ぶ）」「教育の体系（知育・徳育・体育の調和）」によって構成される「建学の精神」に基づき、以下のように学位授与の要件を定める。

1. 本学固有の教育理念であると同時に、古今にわたる普遍の教育理念である「感謝と奉仕に生きる」を常に目途としながら、本学固有の教育目標である「科学的教養の向上と優雅な性情の涵養」を図り、高度な学術知見及びスキルを研究的に培うことによって、自らの職能・職域を通じて健全な社会の創造に貢献し、自らの未来を力強く切り拓くため、所定の期間在学し、所定の単位を修得していること。
2. 大学院共通の専攻共通科目、専攻の設置目的に照らして編成された各科目の必要単位を修得していること。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

鎌倉女子大学大学院は、ディプロマポリシーを達成するために、以下のように教育課程を編成し、実施する。

1. 多様化する現代の児童をめぐる問題状況と学修者各自の問題意識に対応できる効率的なコースワークに配意し、カリキュラムを編成する。
2. 学修者各自の学問的関心に応じた修学過程を歩み、その学修成果を学位論文として結実させる。
3. 各種講義、演習、フィールド研究、臨床研究、論文指導といった多様な教授方法に基づく授業を設置する。
4. 学修者が履修過程を振り返りながら、着実な修学課程を歩むことができるよう、GPA制度に基づく成績評価を行う。
5. 各授業科目について、当該の授業内容のみならず、学修者の汎用的能力の育成及び主体的な学びを促進するために貢献できるシラバスを作成する。
6. 学修者が高度な学術知見及びスキルを研究的に培うことができるよう、修士論文の研究指導担当教員等による研究指導を行う。

アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

鎌倉女子大学大学院は、ディプロマポリシーに定める人材を育成するため、以下のような学生を求める。

1. 学部課程において身につけなければならない学力及び研究力、また倫理性を備えている人。
2. 建学の精神と本学の教育の伝統を尊重し、学修課程を通じてこれを身につける努力を惜しまない人。
3. 本学が行う教育活動に積極的に参加し、これにふさわしい努力を惜しまない人。

このような大学院生を選抜し、また、多様な能力及び個性をもった大学院生を受け入れるため、各種の選抜方法を設定する。

児童学研究科の3つのポリシー

教育目的

児童学研究科は、児童関連諸科学についての専門的学術理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、以って健やかに生まれ、育まれなければならない児童の幸福と成長に貢献できる、高度な専門性と豊かな人間性を備えた人材を養成することを目的とする。

ディプロマポリシー

児童学研究科児童学専攻は、「建学の精神」及び本研究科の教育目的に基づき、以下のように学位授与の要件を定める。

1. 学修者は、児童学の主要な分節を構成する教育・心理・健康福祉・表現文化の各分野についての総合的な教育研究を通して、児童の全体像を理解し、今日の児童をめぐる課題解決へ向けての理論の探究と応用実践力を身につけている。
2. 本研究科本専攻は、所定の期間在学し、上記の条件を充たし、所定の単位を修得している学修者に学位「修士（児童学）」を授与する。

カリキュラムポリシー

児童学研究科児童学専攻は、ディプロマポリシーを達成するために、以下のように教育課程を編成し、実施する。

1. 本専攻を児童学総合研究科目群（クラスター）、子ども心理学研究科目群（クラスター）、学校教育学研究科目群（クラスター）によって構成する。
2. 児童学総合研究科目群は、初等教育分野、幼児教育分野、健康福祉分野、表現文化分野によって、子ども心理学研究科目群は、発達臨床分野、学校教育臨床分野によって、学校教育学研究科目群は、初等教育分野、表現文化分野、学校教育臨床分野によって構成される。
3. 学修者は、それぞれのクラスターに所属し、当該のクラスター科目を中心としながら、自己の関心に応じて他のクラスター科目を併修することができる。
4. カリキュラムは、①「建学の精神特論」を含む専攻共通科目、②各クラスター共通科目及びクラスター固有の分野に設置された必修及び選択科目によって編成される。
5. 第1～2セメスターは、入学時に提出した研究計画に基づいて、研究指導担当教員のもとで2年間の研究計画を立てるとともに、並行して研究を遂行するに必要な基礎的知識・技能を蓄える。
6. 第3～4セメスターは、文献・資料・データの収集とそれらの読解と解釈、調査と分析を通じて、作成された研究計画に基づき研究を進め、修士論文に結実させる。修士論文は、修士論文審査会において審査する。
7. 本専攻は、取得可能な免許・資格として、小学校教諭専修免許状、幼稚園教諭専修免許状、特別支援学校教諭専修免許状、公認心理師試験受験資格、学校心理士受験資格、臨床発達心理士受験資格、認定ムーブメント教育・療法上級指導者資格の課程を設置する。学修者は、自らの関心と努力によってこれらの関連科目を履修することができる。

アドミッションポリシー

児童学研究科児童学専攻は、ディプロマポリシーに定める人材を育成するため、修学意欲のある以下のような大学院生を求める。

1. 児童学、心理学、教育学の各立場から、児童の心身ともに健全な育成と教育に貢献するための研究を遂行できる基礎的学力を備えている人。
2. 実践学としての児童学研究を遂行するにふさわしい適性、倫理性を備えている人。
3. 修学の成果を修士論文として結実させるための主体的な問題意識を有し、コミュニケーションマインドをもって持続的に研究に取り組もうとする真摯な姿勢を備えている人。

卒業生 Interview

大学院から広がる未来

学校法人 鎌倉女子大学 勤務
庄司 亮子
子ども心理学研究科目群（クラスター）2015年度修了

大学院で取得した免許・資格

●臨床発達心理士受験資格
●認定ムーブメント教育・療法上級指導者資格

今の仕事

ムーブメント教育・療法の研究者として、理論と実践の結びつきを伝える

鎌倉女子大学 児童学部 児童学科の専任講師を務め、教育研究の仕事に従事しています。担当しているのは、主にムーブメント教育・療法や障害児に関する授業です。大学卒業後、すぐに大学院に進学したわけではなく、障害児とその家族を支援する施設で10年ほど児童指導員として経験を積みました。大学院修了後は元の職場に復職しつつ、自治体の心理嘱託員や巡回相談心理士などの仕事にも携わってきました。そのため、現在指導している学生たちには、私が現場で培ってきたスキルや実践論と、大学院で学んだ理論を余すことなく伝えるよう心がけています。

大学院での研究テーマと学び

経験に基づく仮説の証明と新たな発見が研究の醍醐味

社会人として働き、子育ても始まっていた時期での大学院進学は、人生のターニングポイントになりました。進学を考えるきっかけは、勤務先の児童発達支援センターで保護者の方の相談を担当する機会が増えたことです。生活面のアドバイスやメンタルケアを行ううち、より専門的な知見に基づいてサポートしたいと思うようになっていきました。そこで、大学院で改めて学び、発達心理学を基礎とした臨床発達心理士の資格取得を目指すことを決めました。

また、仕事として実践していたムーブメント教育・療法の研究を深めたかったので、「ムーブメント教育による家族参加型子育て支援に関する研究」を修士論文のテーマに設定しました。ムーブメント教育が養育者や支援者にもたらす影響を分析し、家族が子どもと一緒に体を動かすことで活気が上がりポジティブな発言が多くなる、逆に緊張や不安感は低下するといったことが明らかになりました。現場で漠然と感じていたことの裏付けになる結果や新たな側面を発見でき、研究の成果を感じられました。

充実した研究環境のある鎌倉女子大学大学院は、少人数なので先生方との距離が近く、幅広い分野の先生方が親身になって相談に乗ってくださり、多様な視点を学びました。実践と理論を結びつける大切さを学んだ場です。修了後、実践的な仕事に携わりながらインクルーシブ保育、子育て支援などの研究との両立に力を注いだことが、今の仕事につながっていると思います。今後も学び続け、その学びを学生や社会に還元していく所存です。

鎌倉女子大学大学院の

4つの特徴

児童を巡る高度な理論および実践研究を目指して設立された大学院児童学研究科児童学専攻には、あなたが研究に打ち込み、大きく成長するための環境が整っています。

1 優れた教授陣

高度な研究力と教授力、また現代という時代の把握力と熱情を持った、人間性に富む優れた教授陣を擁します。分野を超えた学びも手厚くサポートします。

2 最新の研究環境と緑豊かな教育環境

最新の施設・設備・装置を活用できる研究環境と、研究の疲れをリフレッシュできる緑あふれる教育環境が、充実した研究生活を後押しします。

3 大学に併設されている高等部～幼稚部までを擁する教育現場

高等部・中等部・初等部・幼稚部という一貫した教育現場が大学に併設しています。児童学の教育研究にふさわしい環境が整っています。

4 多彩な院生の問題意識に対応したカリキュラム

多様化する現代の問題状況とそれに呼応する多彩な院生の問題意識、また院生各自の効率的なコースワークに対応したカリキュラムを用意しています。

修了後は教育の現場をはじめとするさまざまな分野で活躍

主な就職先

小学校
東京都
神奈川県
横浜市
千葉市
鎌倉女子大学初等部　他

幼稚園・認定こども園
東海大学付属本田記念幼稚園
正和幼稚園
学校法人岩崎学園
鎌倉女子大学幼稚部　他

特別支援学校
東京都
神奈川県

その他・公務員
川崎市役所
横浜市役所
千代田区役所
株式会社LITALICO
社会福祉法人県央福祉会
社会福祉法人青い鳥　他

3つの研究科目群（クラスター）

本大学院に用意されているのは、教育・心理・健康福祉・表現文化を領域とする、児童学の学びをより深めていくための修士課程です。3つの研究科目群（クラスター）から、自分の問題意識に応じた課題を選択し、発達・心理・環境・生活行動・存在価値など、児童に関する包括的な専門研究を行います。

児童学の高度な専門研究に挑戦し、課題解決に貢献する人材を育てます。

「児童学専攻共通必修科目」を基盤として、[児童学総合研究科目群（クラスター）][子ども心理学研究科目群（クラスター）][学校教育学研究科目群（クラスター）]を設けています。それぞれのクラスターでは、「クラスター必修科目」により、児童学、子ども心理学、学校教育学における理論や研究方法を講じます。さらに、クラスター内にはより高度な内容を学ぶ科目群としての「分野」を設け、学生の関心に応じた深い学びを可能にしています。

大学院児童学研究科履修体系イメージ

入学 → 児童学専攻共通必修科目

児童学総合研究科目群（クラスター） P.10
初等教育　幼児教育　健康福祉　表現文化
左記の4分野を有機的に関連付け、多角的な視点から児童および児童を取り巻く課題を探究する。
クラスター必修科目　分野科目

子ども心理学研究科目群（クラスター） P.12
発達臨床　学校教育臨床
「子どものこころと行動」と「子どもが生きる自然・社会・文化的環境」の相互関係について、心理学の観点からアプローチする。
クラスター必修科目　分野科目

学校教育学研究科目群（クラスター） P.14
初等教育　学校教育臨床　表現文化
「小学校教諭専修免許状」を取得し、教育現場で指導的な役割を果たす教員をめざす。小学校教育について総合的な研究実践を行う。
クラスター必修科目　分野科目

→ 修士論文 → 修士学位取得

修了までの履修と研究（修士論文）の指針

セメスター	履修指針	研究（修士論文）の指針
第1 （1年春セメスター）	・児童研究領域全体の展望 ・各研究科目群、分野における専門科目の系統的学修	・専攻・科目群共通科目および各研究分野の特論を通じた、子どもをめぐる諸問題と現状の理解 ・所属クラスターおよび修士論文の研究指導教員の決定 ・自己の問題関心、研究テーマの探索
第2 （1年秋セメスター）	・各分野における学修・研究の基盤となる方法論の修得 ・各分野における具体的支援技法に関する学修 ・フィールドにおける子どもの実態の把握	・修士論文研究に関する方法論の修得 ・修士論文研究テーマの決定
第3 （2年春セメスター）	・理論的研究と実践的研究を統合しながらの学修および研究 ・発達、学修支援の体験的理解	・研究課題に沿った文献、資料および調査、実験データの収集 ・修士論文題目の提出（5月ごろ） ・修士論文中間報告（7月ごろ）
第4 （2年秋セメスター）	・修士論文作成を視野に入れた学修 ・修了後の進路を視野に入れた学修	・修士論文の執筆　・修士論文の提出（1月） ・修士論文概要の提出　・修士論文発表会（2月）

主な修士論文題目

- 保育者が相談員に求める「気になる子ども」へのコンサルテーションについて
- 性の多様性の認識と理解を目指して　―事例研究と実験研究による検討―
- 発達に遅れのある子どもの感覚運動機能の特異性に関する研究　―身体意識発達との関係に着目して―
- 大学受験期の女子高校生に行ったピア・サポートプログラムがストレス関連成長に与える効果
- ムーブメント教育による障がいの重い子どもの発達支援に関連する研究　―療養におけるアセスメントの活用―
- 高等学校におけるインクルーシブ教育の効果に関する研究　―生活充実度および学習意欲の視点に基づいて―
- 児童相談所一時保護所における児童の「心の安定」を図る学習支援に関する研究　―職員を対象とした半構造化面接に基づいて―
- 受験経験の有無と動機づけ変遷との関連の検討　―女子大学生を対象とした回顧法の質問紙調査を用いて―
- 親子関係と友人関係の発達が小学生のレジリエンスに及ぼす影響
- アイデンティティの形成が「ひとりの時間」に及ぼす影響
- 少子社会における中年期女性のキャリア・プロセスの検証　―半構造化面接によるM-GTAの分析を通して―
- 音楽認知と脳機能の関連性　―リズム認知と運動機能に関する検討―
- 幼少期の負情動・身体感覚の否定経験が認知的感情制御の発達に及ぼす影響
- 女子大学生の自己観と友人関係
- 特性的自己効力感と学習動機づけおよび心の支えとの関連について
- コロナ禍における育児不安の現状の変化と支援の検討
- 移行対象の経験が大学生のストレス対処行動に与える影響
- 保育所における気になる子どもの保護者への支援　―保育所の支援体制に着目して―
- 女子大学生における過剰適応傾向と社会的クリティカル・シンキングとの関連の検討
- アイドルを推すファン心理・ファン行動と没入傾向の関連について　―アイデンティティの形成状態に着目して―
- テンポが人間の認知・歩行に及ぼす影響
- 母親の育児不安と運動との関連性について
- 特別なニーズを有する子どもの父親支援に関する研究　―家族支援プログラムへの主体的参加を目指して―
- 障がいのある子どもの放課後支援に関する研究　―放課後等デイサービスにおける支援に焦点をあてて―
- 月経随伴症状の心理的苦痛に対する感覚特性・フォーカシング的態度の検討

研究生活の拠点

教室棟の5階にある大学院講義室と自習室が2年間の学びの拠点になります。自習室には一人ひとりの専用デスクが備えられています。また、23万冊以上の蔵書数を誇る図書館は元より、自習室のすぐ近くには、研究に必要な専門性の高い書籍や教員の研究領域に直結した書籍が数多く所蔵された大学院生専用の文献室が設置されており、必要な情報にすぐに手が届く環境が整えられています。

大学院講義室

自習室

文献室

図書館

Check

「ティーチング・アシスタント（TA）制度」で研究生活をさらに充実

本学大学院では、大学院生が学部生に対するチュータリング（助言）、および講義などの補助業務を行う「TA制度」を導入しています。この制度を活用すると、教育力と研究力を磨くことができるだけでなく、将来、教育・研究に携わる際に必要とされる経験を積む絶好の機会が得られます。なお、このTAの業務には手当を支給しています。

神奈川県内の大学間における学術交流

本学大学院は、神奈川県内の大学間の学術交流を通じて、大学院における教育・研究活動のより一層の充実を図るため、「神奈川県内の大学間における学術交流協定」に加盟しています。授業は無料で受けることができます。（実験実習費を除く）

- 特別聴講学生（参加大学大学院の授業科目を履修することができます）
- 特別研究学生（参加大学大学院の教員から研究指導を受けることができます）
- 教員との共同研究等（参加大学大学院で実施する共同研究などに参加することができます）

参加大学

- 青山学院大学
- 麻布大学
- 神奈川大学
- 神奈川工科大学
- 神奈川歯科大学
- 関東学院大学
- 北里大学
- 相模女子大学
- 松蔭大学
- 湘南工科大学
- 昭和医科大学
- 情報セキュリティ大学院大学
- 女子美術大学
- 聖マリアンナ医科大学
- 専修大学
- 総合研究大学院大学
- 鶴見大学
- 田園調布学園大学
- 桐蔭横浜大学
- 東海大学
- 東京科学大学
- 東京工芸大学
- 東京都市大学
- 日本大学
- フェリス女学院大学
- 文教大学
- 明治大学
- 横浜国立大学
- 横浜市立大学
- 横浜創英大学

Common Subjects

児童学専攻共通必修科目

授業科目 1　建学の精神特論

鎌倉女子大学の教育の精神を、その理念・目的・方法・姿勢・体系にわたり、総合的に論じることを計画しています。
本学の教育の精神は、むろん本学のオリジナリティーに根差したものですが、しかし独り本学のみに限定された特殊妥当的な教育の精神ではありません。それは、古今東西の教育の精神の本質をそのまま反映したものであり、従って本学の教育の精神を論じることは、自ずとプラトンからウェーバーまでの西欧の教育観、現代思想の先駆をなすキルケゴールやニーチェ以来の時代認識、あるいは日本古来の人間観、孔子や最澄をはじめとする東洋の倫理観・宗教観等々を参照することにもなります。
受講者は、自ら考える姿勢を持って授業内容に取り組むことが期待されています。

授業科目 2　児童研究総合基礎

本講義は、教育・心理・健康福祉・表現文化にわたる諸領域を包摂する総合学としての児童学の理解を徹底させるところに主眼を置いています。このため、各分野のスペシャリストによる連続講義の形式を採用します。
とりわけ、幼児教育段階において重視される家庭・地域との連携、初等教育段階において必須となる教授学的・学習論的方法の修得、児童が生きる生活世界および精神世界を構成する文化現象ならびに心理現象の把握、心身の健全な発達を推進するための健康増進と疾病予防、特別な配慮を必要とする子どもたちへの支援などが取り扱われることになります。
また、これら5分野の学術知見を最新の情報も取り入れながら総合化するとともに、それぞれの分野に課せられた課題・解決に向けてのソリューション・システムを構築することにも注力します。

授業科目 3　児童学特別講義

この講義は1、2年次１単位で行います。具体的には、本学で開催される児童学関連の講演会や児童学または児童学関連の学会における講演、研究発表、シンポジウムなどに参加し、それを聴講します。そして講演内容を考察することによって、受講生の研究活動に有益な知識として役立たせることを目標にしています。受講後にレポート提出を義務付けます。
〈学術研究会・シンポジウム 参加例〉
日本児童学会、日本心理学会、日本発達心理学会、鎌倉女子大学学術研究所主催講演会、子ども発達臨床研究施設シンポジウム　など

授業科目 4　児童学特別研究

1年次は、入学時に提出した研究計画に基づき、決定された研究指導教員より修士論文作成の個別指導を受けます。2年次は引き続き個別指導を受ける一方、各クラスター共通必修科目の受講によって、児童理解や実態把握を深め、修士論文を完成させます。

在学生 Interview

大学院で学びを深める

星川 嘉奈
鎌倉女子大学 児童学部 子ども心理学科 2023年度卒業
修士課程1年 子ども心理学研究科目群（クラスター）

大学卒業までに取得した免許・資格
- 認定心理士
- 認定ムーブメント教育・療法中級指導者資格
- 准学校心理士
- 児童指導員任用資格

大学院で取得を目指す免許・資格
- 公認心理師試験受験資格

修士論文テーマ
ADHD児の行動変容に対する効果的な運動プログラムの検討

大学院への進学理由

子どもと保護者の生活に伴走する公認心理師を目指す

大学への進学時、幼稚園の先生になるか、心理職に就くかを迷っていたので、どちらの道も選べる鎌倉女子大学の子ども心理学科を選びました。子どものこころと行動を学ぶうちに、将来は心理職の立場で、悩みや困りごとを抱える子どもや保護者の方と一緒に、目標に向かって頑張っていきたいと考えるようになり、公認心理師の資格取得を目指す気持ちが固まりました。鎌倉女子大学大学院を選んだのは、公認心理師の資格取得課程があり、関心を持つ発達障害児の臨床に関する研究を深められる環境が整っていたからです。先生方との距離が近く、研究を進めていく上で生じる疑問や悩みにすぐ乗っていただけるところも魅力でした。キャンパス内にある院生自習室にはさまざまな分野を研究する院生たちが集まり、情報や意見を交換しながら多角的に学びを深め合っていて、自己研鑽に励んでいます。

大学院での研究テーマと学び

発達障害児の臨床に関する研究を起点に多様な分野の知識や視点を吸収できる環境

現在、「ADHD児の行動変容に対する効果的な運動プログラムの検討」をテーマに、ADHD児への運動療育の効果について研究しています。このテーマに取り組むきっかけは、大学1年次から関わりを続けている放課後等デイサービスでのADHD児との出会いでした。ADHD児と一緒に公園でたくさん運動した日は、室内に戻ってからも普段よりずっと落ち着いて過ごせていたことから、運動療法によって集中力や多動性にどのような影響があるかを追究したいと思ったのです。副作用がなく、経済的な負担も少ない運動療法で、ADHD児が楽しく本を読んだり、集団生活に慣れたりできるようになることが私の願いです。研究では、体の動かし方や動きの分類について、健康科学、身体教育学、基盤脳科学を専門とする指導教員に助言いただきながら独自の運動プログラムを作成し、実際に子どもたちに試してもらって適切な運動強度を計測しています。研究と並行して公認心理師の資格取得に向け、児童養護施設や教育支援センターなどでの実践実習も行っています。座学で得た理論と現場での実践とのつながりを感じる日々です。また、児童学研究科には教育学を研究している院生もいるので、例えば、クラスに馴染めない子どもへの支援を考える場合、発達障害児を研究している私なら個人の支援について考えるのですが、教育学が専門の院生は学校という集団での支援を考えるといったように視点が異なります。学校現場の今後はどうなるか、といった大きなテーマに議論が発展することもあり、一つの視点にこだわらず、多角的に子どもを見る力を養っています。子どもと保護者の生活に伴走し、切れ目ない支援ができる心理師が目標です。

児童学総合研究科目群（クラスター）

学びの領域

児童学は、理論と実践を統合した総合学です。「初等教育」「幼児教育」「健康福祉」「表現文化」の4つの分野を総合的に配置したカリキュラムにより、各分野を有機的に関連付けながら、多角的な視点から児童および児童を取り巻くさまざまな課題を探究します。

Future　教育研究機関（短大、大学）／教育機関（保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校）／教育行政機関／社会福祉施設／民間教育事業／企業などで活躍できる人材

初等教育分野

児童の小学校教育段階における人間形成過程に焦点を当て、最新の教育研究の成果を教育実践現場にフィードバックする研究システムについて学びます。また、昨今の教育場面で課題とされている「特別な配慮を要する子ども」への対応について、実践的な観点から学びます。

幼児教育分野

保育実践のフィールドにおける実践事例研究を通し、幼児との交流の中から、保育者が依拠すべき理論および技法を深く学びます。また、教育・保育施設の経営や、幼小連携・幼保一体的な取り組みへの対応などについて学ぶことができます。

児　童

健康福祉分野

乳幼児から18歳未満の子どものライフサイクルの中で、家庭や地域の持つ教育力や社会資源を活用する視点から、子どものウェルネス・ポジティブヘルスに関わる内容論・方法論・行政論などを専門的に学びます。

表現文化分野

音楽・美術・体育・ダンス・児童文学などについて学び、自らの表現力を高めるとともに、幼児・児童の表現活動を広げる実践的スキルを修得します。

特色ある授業科目

■ 児童学フィールド研究

専門分野が異なる複数の教員によるオムニバス方式で、学校や施設（鎌倉女子大学幼稚部・初等部、近隣の児童相談所など）をフィールドとして研究を行います。各専門分野のフィールド研究の方法論を深く学びながら、院生各自の研究テーマを空間軸（近接する研究分野との関わり）と時間軸（過去から現在への研究の流れ）上に位置付けることで、新たなフィールド研究の方向性を見いだします。初等教育の臨床的経験・調査、幼児教育における環境構成・児童文化、児童相談所の専門的援助活動の現状と課題、表現文化（音楽、図工、体育）について取り上げます。

■ 表現文化研究演習

教育・保育施設での優れた実践に必要なスキルとしての表現文化を4つの専門分野から学び、その有機的連関について探究していきます。

表現文化研究演習Ⅰ（音楽）

日本の伝統音楽、西洋音楽、民族音楽など、多様なジャンルの音楽表現の教育・保育現場への活用について考えていきます。

表現文化研究演習Ⅱ（図工）

色彩理論に基づく演習、多様な画材の扱い方、美術制作や指導における価値観のあり方など受講生の問題意識に合わせて実施します。

表現文化研究演習Ⅲ（体育）

実技を通して運動の特性を理解しながら、子どもが上手に身体を動かせるようになるための指導方法を考えていきます。

表現文化研究演習Ⅳ（総合表現）

子どもの遊びの中で育まれる言語表現の能力に注目し、表現活動の事例研究を通じて、乳幼児期の言葉の発達にふさわしい表現活動を探求していきます。

2年間のカリキュラム

	1年次	2年次
児童学専攻共通必修科目	**建学の精神特論（1単位）** **児童研究総合基礎**	
	児童学特別講義（1単位） **児童学特別研究（4単位）**	
クラスター必修科目	**児童学総合研究特論** **児童学総合研究方法論** **児童学フィールド研究**	
初等教育分野	**教職特論［分野必修］** 教育基礎理論特論 教育課程・指導法特論	現代授業研究Ⅰ群演習（国語・社会） 現代授業研究Ⅱ群演習（算数・理科）
幼児教育分野	**幼児教育学特論［分野必修］** 幼稚園経営管理特論	幼児教育学演習 乳児保育学演習 実践保育演習
健康福祉分野	**小児保健学特論** **（保健医療分野に関する理論と支援の展開を含む）［分野必修］** 小児栄養学特論 福祉分野に関する理論と支援の展開	小児保健学演習
表現文化分野	**表現文化研究特論［分野必修］**	表現文化研究演習Ⅰ（音楽） 表現文化研究演習Ⅱ（図工） 表現文化研究演習Ⅲ（体育） 表現文化研究演習Ⅳ（総合表現）

※**太字**＝必修科目　※特記のない科目は2単位

子ども心理学研究科目群（クラスター）

学びの領域

児童関連分野についての総合的な理解を深めながら、特に心理学を基軸として、
子どもの心と行動について子どもが生きる自然・社会・文化的環境との相互関係の中で把握し、
18歳未満の子どもの発達過程について連続的な視点からの研究を行います。

Future　教育研究機関（短大、大学）／児童福祉施設などの子育て支援相談員および心理療法担当／各種学校のカウンセラー／行政機関の心理職などで活躍できる人材

発達臨床分野

子育て支援、幼児教育・保育現場での高度な知識と援助技法を修得することを目指します。また、発達心理学、小児精神医学、特別支援教育における実践的支援（ムーブメント教育・療法）の3方面から、発達障害児臨床に関する高度の専門知識・スキルを修得します。

子 ど も 心 理

学校教育臨床分野

学校および学校以外の教育現場における学校心理臨床・教育心理臨床の高度な知識と援助技法を修得することを目指します。特に通常学級に在籍する神経発達症児をはじめとして、様々な困難や課題を抱えている子どもに対して、心理・教育アセスメント、個別支援計画の作成、支援方法の提案ができる知識と技術を身に付けます。

特色ある授業科目

■ 子ども心理学フィールド研究

子どもの発達支援に関わる現場である小学校、幼稚園、保育所、療育センターなどを訪問し、各々の現場でどのような心理学的アプローチが求められているかを学びます。複数の現場における実践を体験することで、それぞれのアプローチにおける共通点や相違点を比較し、そこから見えてくる研究課題を発見することを目指します。この科目は、専門が異なる数名の教員によってオムニバス方式で進められます。それぞれの現場に精通した教員とディスカッションを重ねることで、問題を眺めるための多様な視点を獲得できることも、この授業の特色です。

■ 発達障害特論（臨床と支援）Ⅰ・Ⅱ

子ども心理学クラスターの特徴は、障害のある子どもに焦点を当て、医学・心理・教育・福祉など、さまざまな側面から多角的に理解を深めるとともに、その特性を踏まえた支援を考える多様な講義があることです。この授業では、各分野において注目されている神経発達症を臨床的に正しく理解して支援につなげられるように、さまざまな角度からアプローチして考えていきます。

■ 子ども発達教育臨床

障害のある子どもの支援法の一つとして注目されているムーブメント教育・療法が学べることも、このクラスターの特色です。

子ども発達教育臨床Ⅰ（ムーブメントアセスメント）

子どもの身体運動、言語、社会性、コミュニケーションの発達を客観的に把握し、支援の指針を得るためのアセスメント「MEPA-R（メパ-アール）」を通して、発達に対する知見を深めます。

子ども発達教育臨床Ⅱ（音楽ムーブメント）

ムーブメント教育・療法の支援環境において、遊具・音楽・人は重要な役割を担っています。ここでは環境としての音楽や音の使い方、音楽ムーブメントの理論と実際について演習を通して学びます。

2年間のカリキュラム

	1年次	2年次
児童学専攻 共通必修科目	**建学の精神特論（1単位）** **児童研究総合基礎**	
	児童学特別講義（1単位） **児童学特別研究（4単位）**	
クラスター 必修科目	**子ども心理学研究特論** **子ども心理学研究方法論** **子ども心理学フィールド研究［選択必修］** **心理実践実習Ⅰ（4単位）［選択必修］**	
発達臨床分野	**発達心理学特論［分野必修］** 子ども臨床心理学特論 心の健康教育に関する理論と実践 心理支援に関する理論と実践Ⅰ 心理支援に関する理論と実践Ⅱ 子ども発達教育臨床Ⅰ（ムーブメントアセスメント） 言語発達の基礎 言語発達の評価と支援 発達障害特論（臨床と支援）Ⅰ 発達障害特論（臨床と支援）Ⅱ 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 産業・労働分野に関する理論と支援の展開 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	子育て支援特論 子育て支援演習 子ども発達教育臨床Ⅱ （音楽ムーブメント） 心理実践実習Ⅱ（6単位）
学校教育 臨床分野	**教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）［分野必修］** 学校心理学特論 障害児の心理と教育 特別支援教育特論 特別支援教育教育課程特論 特別支援教育コーディネーター特論 心理的アセスメントに関する理論と実践 子ども発達教育学（ムーブメント教育・療法）特論	学習指導・進路指導演習 学校カウンセリング演習 子ども発達教育学 （ムーブメント教育・療法）演習

※**太字**＝必修科目　※特記のない科目は2単位

学校教育学研究科目群（クラスター）

学びの領域

児童学研究科における教育研究の特色である、児童に関する諸科学の
総合的な知識・スキルの修得を基盤としながら、小学校教諭専修免許状の取得を目指します。
高度な理論研究と実践的指導力の育成に資するバランスの取れたカリキュラムで、
教育行政や学校現場などと連携・協力を図りながら、学校教育と教育研究5領域の観点から
小学校教育について総合的な研究実践を行います。

Future　小学校教育の指導的役割を果たすことができる教員（スクールリーダー）／
教育行政機関や民間教育事業などで活躍できる人材

小 学 校 教 育

初等教育分野

教育研究5領域（「教育課程」「教科等の指導方法」「生徒指導・教育相談」「学校経営等」「学校教育と教員の在り方」）に関する科目を学修します。教育課程編成や学校経営等に関する講義・研究・演習などを通してスクールリーダーとしての資質・能力を、そして、各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動等に関する授業研究と演習を通して、教師としての実践的指導力を身に付けます。

表現文化分野

学校教育と表現文化に関わる音楽、図画工作、体育、外国語活動などについて具体的かつ総合的に学修し、小学校教育における表現文化の中心的な役割を担える実践的指導力を身に付けます。

学校教育臨床分野

学校教育の実際と、教育心理学や学校カウンセリング、キャリア教育などについて学修し、小学校教育における「いじめ」「不登校」「暴力」などの課題対応や、人間としての「在り方生き方」指導などの中心的な役割を担える実践的指導力を身に付けます。

特色ある授業科目

■ 学校教育学フィールド研究

鎌倉女子大学の初等部（小学校）や首都圏の公立小学校などと連携し、小学校をフィールドとして調査研究を行い、教育研究の方法などを身に付けます。小学校の教育課程、教科等の指導方法、生徒指導、学級経営、学校経営、教員等のさまざまな観点から調査研究と演習などを行い、小学校教育と教師の在り方について研究します。

■ 現代授業研究Ⅴ群演習（外国語活動（英語））
■ 小学校英語演習
■ 表現文化研究演習Ⅴ（英語コミュニケーション）

現在、初等教育の現場では、外国語活動（英語）の授業を充分展開でき、その中心的役割を担える教員が求められています。特に重要なのは、単に英語に慣れているということより、正確な発音ができることです。しかし、日本人の多くは、アルファベットさえ正確に発音できません。そこで本大学院では、小学校英語の内容や指導方法を学ぶだけでなく、英語音声学を重視し、授業では発音のクリニックも導入しています。

2年間のカリキュラム

	1年次	2年次
児童学専攻 共通必修科目	**建学の精神特論（1単位）** **児童研究総合基礎**	
	児童学特別講義（1単位） **児童学特別研究（4単位）**	
クラスター 必修科目	**学校教育学研究特論** **学校教育学研究方法論** **学校教育学フィールド研究**	
初等教育分野	**教職特論［分野必修］** 教育基礎理論特論 教育課程・指導法特論 学校経営管理特論 教育社会学特論 近代教育思想史 現代授業研究Ⅴ群演習（外国語活動（英語）） 小学校英語演習	現代授業研究Ⅰ群演習（国語・社会） 現代授業研究Ⅱ群演習（算数・理科） 現代授業研究Ⅲ群演習（生活・家庭） 現代授業研究Ⅳ群演習 （道徳・総合的な学習の時間・特別活動）
表現文化分野	**世界の教育・文化特論［分野必修］**	表現文化研究演習Ⅰ（音楽） 表現文化研究演習Ⅱ（図工） 表現文化研究演習Ⅲ（体育） 表現文化研究演習Ⅳ（総合表現） 表現文化研究演習Ⅴ（英語コミュニケーション）
学校教育 臨床分野	**教育心理学特論** **（教育分野に関する理論と支援の展開）［分野必修］** 特別支援教育特論	学習指導・進路指導演習 学校カウンセリング演習

※**太字**＝必修科目　※特記のない科目は2単位

授業科目の概要

必修:● 選択必修:▲ 選択:○

授業科目	講義内容	クラスター		
		児童学	子ども心理学	学校教育学
児童学総合研究特論	総合学である児童学は、教育・福祉心理・保健・表現文化といった諸分野から構成されています。各々の領域が児童の健全育成に寄与し、児童学のエレメントを形成していますが、各々の分野を考究するとともに、各科学分野の役割と連携とは何かについて考察していきます。	●		
児童学総合研究方法論	教育・心理・健康福祉・表現文化という児童学各分野の研究(論文)を取り上げ、児童学の研究方法について検討します。研究方法の検討を通して、これらに通底する「児童を主体として総合的に捉える視点」について考えます。	●		
児童学フィールド研究	本講義は、専門分野が異なる複数の教員によるオムニバス方式により行われます。受講生は、初等教育・幼児教育・健康福祉・表現分野の各専門分野のフィールド研究の方法論を幅広く学びながら、各自の研究テーマを、空間軸(近接する研究分野との関わり)と時間軸(過去から現在への研究の流れ)上に位置付けることで、新たなフィールド研究の方向性を見いだすことが期待されています。初等部・幼稚部・児童相談所などとの連携のもとに研究が進められ、自ら主体的に研究計画を立案し、調査・実験を実施し、結果を分析・考察し、最終的に研究報告を行う、という実証的な研究能力を修得します。	●		
幼児教育学特論	幼児教育に関わる古典、基本文献を講読することで、幼児教育に対する考え方をより深めるようにします。文献に書かれている内容を具体的な場面と関連させて議論します。	▲		
幼児教育学演習	この授業は、乳児期からの学び(非認知的能力など)に関する幼稚園教育の在り方をはじめ、幼保小連携の課題、子ども理解の方法と自己評価、特別な配慮を必要とする保育の在り方、諸外国の保育動向など、幼児教育の抱える最前線のテーマを掘り下げ、幼児教育実践に貢献し得る研究を進めます。	○		
乳児保育学演習	変化し続ける乳児を取り巻く環境の中、乳児にとって真に望ましい乳児保育の在り方を考えます。また、育児不安、虐待、母子関係など、乳児保育と関係の深い事柄についても触れていきます。	○		
実践保育演習	子ども・子育て支援新制度、幼児教育の無償化制度など、保育環境の変化が著しい今日、保育所などに期待される役割がさまざまな観点から重要になっています。この授業では、多様な保育の実態を理解するべく、地域の保育施設等と連携し、フィールド観察を中心に生きた実践の在り方を学ぶとともに、現場に貢献し得る保育実践の在り方を研究します。	○		
幼稚園経営管理特論	現在、日本の幼稚園教育、保育制度は、子ども・子育て支援新制度、2019年度からの幼児教育・保育の無償化など大きな転換期を迎えています。そこで、この授業では、幼稚園教育制度の変遷、幼稚園教育課程、評価、保護者との対応、教育管理、財務管理などに焦点を当てて、実践の場からの資料をもとに考察・討議します。	○		
小児保健学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開を含む)	子どもが心身ともに健康に育つための学問が小児保健です。胎児期、乳幼児期、学童期、そして青年期に至るまでの時期を健康に過ごすための知識を学びます。それに加えて、保健医療の仕組みや扱われる疾病について学びます。そして関わる職種や仕事とリエゾンの在り方などについても考えます。	▲		
小児保健学演習	「小児保健学特論」で学んだ基礎知識を発展させ、現代社会において問題点となっている事を挙げ、問題点の整理と解決の糸口を探ります。具体的には、子どもの遊び、食生活、睡眠、学校などの子どもの生活の中で抱える問題、家庭内で起きる虐待問題などを取り上げます。そして子どもの健やかな成長を損なわないための方法を考えていきます。	○		
小児栄養学特論	子どもの栄養摂取は、乳汁を飲むことから出発して成人と同様の食事をするまでに著しい変化を経験し、健康と深く関わります。一方で近年の社会情勢の変化は、子どもの食事環境に大きな影響を及ぼしています。子どもの食生活の現状を多角的に把握するために文献抄読を行い、社会調査・評価と目標設定・栄養改善計画および検討・実施・フィードバックといった栄養教育プログラムの一連の過程を研究します。	○		

必修:● 選択必修:▲ 選択:○

授業科目	講義内容	クラスター		
		児童学	子ども心理学	学校教育学
福祉分野に関する理論と支援の展開	福祉分野の基礎的事項を復習したうえで様々な事例を取り上げ、現場にかかわる心理職の立場を想像しながら、求められる対応やその根拠について考察していきます。授業では、事例についての考えを整理し議論することで、行動のベースとなる考え方を学びあえるよう進めます。	○		
表現文化研究特論	子どもの表現文化とは何か、またその文化を支えるためにどのような制度や専門職が必要か。フォーマルな制度からは見えづらいインフォーマルな教育の営みを捉えるため、国内外のリソースを探りながら子どもの表現文化の歴史的特質と先行研究の理解を深め、自らの研究の視座を獲得することが目標です。具体的には文献講読とディスカッション、レポート制作を行います。	▲		
表現文化研究演習Ⅰ (音楽)	音楽的な表現文化について講義と演習授業を通して教育研究を行います。日本の伝統音楽、西洋音楽、異文化における民族音楽などの比較・分析を行い、広い視野で音楽表現について考察します。また演奏・創作などの演習を通して、教育・保育現場で活用できる音楽表現の実践力を修得していきます。	○		○
表現文化研究演習Ⅱ (図工)	授業の事例研究、教材研究、美術教育史研究などを通して、学校教育における「図画工作」や「美術」が子どもの成長に与える意義について考察します。また自分の手による作品制作を行い、美的感覚を追求するとともに、現代における美術そのものの楽しさや意味について体験的に探究します。	○		○
表現文化研究演習Ⅲ (体育)	子どもらしい自己の存在を表現する活動としての運動や運動遊びは、身心の統合的な発育発達に大切です。さらに生涯的な観点も含め、子どもが運動を継続していくには楽しさを感じる必要があり、その一つの要因に上手に身体を動かせることがあります。実技を通して運動の特性を理解し、運動が上手くなるための動作の着眼点や指導方法を検討していきます。	○		○
表現文化研究演習Ⅳ (総合表現)	子どもたちの自己表現が、方法や媒体において総合的なものであることを学びます。また、子どもたちの自己表現の基礎となる体験や経験が重要であることを鑑み、フィールドの実態を理解するための見学や観察を取り入れ、子どもの表現分野の課題や成果について研究を深めます。	○		○
表現文化研究演習Ⅴ (英語コミュニケーション)	日常的な英語コミュニケーションで使われる様々な表現を学んだ上で、英語指導者として必要な発音・リスニングの知識とスキルを身に付け、その定着の為に、歌やチャンツで繰り返し練習を行います。			○
子ども心理学研究特論	科学の本質とその方法論を理解し、科学としての心理学を理解します。特に、情動と認知を中心に、その発達、機能、生理学的基礎である脳との関わり、計測および評価の方法などについて、講義・演習を通して学修します。また、実験演習を通して具体的な研究方法を修得します。		●	
子ども心理学研究方法論	子どもを対象とする心理学研究の方法論を理解するために、実験計画法、データの収集と統計的解析法、いくつかの基本的な研究方法(質問紙法、面接法など)について概説します。また、心理学研究に関わる者の倫理について解説します。		●	
子ども心理学フィールド研究	この科目は、子ども心理学に密接に関わる現場(育児・保育・療育・教育実践等が行われている現場)を実地見学することにより、実践と理論とを結び付ける機会と視点を提供します。フィールド研究及びその方法について学んだうえで、実際の現場でフィールド研究の方法論を用いて研究の体験をします。		▲	
心理実践実習Ⅰ	主に、教育分野と福祉分野の学外実習、および学内実習を行い、心理学的アプローチや支援を必要とする者等に関する知識を深め、要支援者等の理解とニーズの把握および要支援者へのチームアプローチ、多職種や地域との連携について学修します。学外実習施設は、教育分野では教育センター等、福祉分野では療育センター、療育園、虐待防止センター等の予定です。		▲	

必修:●　選択必修:▲　選択:○

授業科目	講義内容	クラスター		
		児童学	子ども心理学	学校教育学
発達心理学特論	本講義では、乳幼児期から青年期までの乳児、幼児、児童、青年を対象とした発達に関する研究論文を取り上げ、「学校教育の基盤としての発達心理学」、「認知・思考の発達」、「自己意識の発達」、「社会性の発達」、「言語の発達」についての理解を深めます。		▲	
子ども臨床心理学特論	乳幼児期から青年前期における心と行動の問題について、実践的な観点から検討を行います。子ども臨床における基本的な知識やスキルを修得するばかりでなく、国内外の文献講読を行い最新の情報に触れながら、より効果的なアセスメントや支援について考察していきます。		○	
心の健康教育に関する理論と実践	心の健康とは何か、良好に保つための方法について、特に子どもの心身の発達および認知発達に焦点を当てて考えます。そして、心の健康が損なわれた状態、すなわち障害について理解を深めます。さらに、小児期から老年期に至るまでの精神障害について学び、心の健康を維持するための理論と方法について理解を深めます。		○	
子育て支援特論	近年の子育て環境を巡る状況の変化により、子育て支援の重要性が社会的に認められてきています。幼稚園、保育所における子育て支援サービスや地域における子育て支援の実践例を把握し、わが国の子育て支援の意義とその在り方について考えていきます。		○	
子育て支援演習	近年、児童虐待が社会問題としてクローズアップされていますが、その背景には地域も含めた子育て力の弱さがあると指摘されています。子育ては必ずしも家族だけが担うものではなく、社会的視点からも子育てを考えていく必要に迫られています。ここでは今日的な意義やその動向を考察します。		○	
心理支援に関する理論と実践Ⅰ	心理療法の理論および技法の修得を目指し、文献講読およびディスカッションを通して学びます。心理支援を要する方の特性や状況に応じた適切な支援の在り方について考えるとともに、さまざまな心理療法の理論と方法を説明できるようになることが目的です。		○	
心理支援に関する理論と実践Ⅱ	心理療法の基礎理論および技法の理解を深めた上で、心理支援の実際について、さまざまな事例についてディスカッションや演習を行いながら学びます。ケースフォーミュレーションや、各心理療法の可能性と限界、適切な支援方法の選択などについて説明できるようになることが目的です。		○	
子ども発達教育臨床Ⅰ（ムーブメントアセスメント）	子どもの身体運動（からだ）、言語・認知（あたま）、社会性・情緒（こころ）の発達の様相を把握し、支援の指針を得るためのムーブメント教育・療法に関連するアセスメント（MEPA-R）などについて、発達教育に必要な理論と活用方法を学びます。		○	
子ども発達教育臨床Ⅱ（音楽ムーブメント）	動き（ムーブメント）と音楽は、切り離すことのできない関係にあります。欧州で発展し、わが国ではじめて開講された音楽ムーブメントは、音楽と動きが連携した実践学です。ここでは、音楽ムーブメントの理論と実際について、演習を中心に音楽や音の活用方法を学びます。		○	
言語発達の基礎	さまざまな発達臨床において具体的な支援を行うためには、人間の言語発達の機序を見立てられなければなりません。言語発達の生物学的基礎を学び、それらが環境と力動的に関わりながら発達していく過程を理解できるようにします。言語発達上の各内容が発達全体の過程にどのように影響するのかを検討します。		○	
言語発達の評価と支援	対象児の言語発達評価のために、生物・心理・社会的各側面から複合的に捉えることができるように的確な情報収集の仕方を学びます。さまざまな心理・教育アセスメントバッテリーの利用、さらにこれに即した支援の実際や、言語発達支援の現代的問題と支援の場について理解し、望ましい支援のありようについて検討します。		○	

必修:●　選択必修:▲　選択:○

授業科目	講義内容	クラスター		
		児童学	子ども心理学	学校教育学
発達障害特論（臨床と支援）Ⅰ	発達障害に焦点を当てた授業です。「Ⅰ」では、小児精神医学および特別支援教育に焦点を当てて授業を行います。ケーススタディ形式によって学びます。授業内討論によりアセスメントおよび支援方法を考えます。		○	
発達障害特論（臨床と支援）Ⅱ	「Ⅰ」に引き続き、発達障害に焦点を当てた授業になりますが、特別支援教育における実践的支援（ムーブメント教育・療法）や発達心理学からのアプローチになります。「Ⅰ」同様に、ケーススタディ形式によって学びます。授業内討論によりアセスメントおよび支援方法を考えていきます。		○	
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	「司法・犯罪心理学」の分野について、大学で学修した犯罪・非行、犯罪被害および家事事件についての基礎知識や、司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理的支援についてより発展させ、公認心理師としての実践的な理論と支援へとつなげます。具体的には、非行や犯罪が生じるメカニズムの理解、犯罪被害者の心理と心理学的支援、家庭内紛争にある子どもや家族の心理と心理学的支援を学修します。		○	
産業・労働分野に関する理論と支援の展開	産業・労働分野における諸問題、特に、労働者のメンタルヘルス（心の健康）とキャリア形成に関する心理支援のための理論と方法を、事例検討などの演習を通して実践的に修得します。産業・労働分野の諸問題と労働者の心理支援の背景となる理論や知識を説明できるようになることが目的です。		○	
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	心理支援領域の拡大によって、従来の面接室型の臨床モデルだけでなく、クライエントを取り巻く生活空間全体を視野に入れた多面的援助アプローチが求められています。特に、不登校・ひきこもりや暴力などに関する深刻な事例では、家族・集団・地域社会などのネットワークを活用した多面的アプローチの視点が重要です。本授業では家族・集団・地域社会など生活空間全体に注目し、クライエント個々人に合った多面的援助アプローチに関する理論、方法、実践について学びます。		○	
心理実践実習Ⅱ	主に、医療分野の学外実習および学内実習を行い、心理学的アプローチや支援を必要とする者等に関する知識を深め、要支援者等の理解とニーズの把握および要支援者へのチームアプローチ、多職種や地域との連携について学修します。学外実習施設は、病院、クリニックです。		○	
教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	教育心理学として学んできたことをさらに掘り下げ、実際にどのような問題が生じているのか、そのことを明らかにするのにどのような研究が行われているのか、そして、どのような解決が必要なのか考えていきます。		▲	▲
学校心理学特論	学校心理学の概念と、学校心理学が基礎としている領域を示し、学校心理士として学ぶべき知識・技能について解説します。また、学校心理士が果たす基本的な役割、具体的な活動などについて概説します。		○	
障害児の心理と教育	障害のある子どもの心理的諸機能の発達を理解するとともに、教育的支援の実際を学びます。論文講読を通して、発達が環境との相互作用により促されることを知り、支援における環境設定の重要性について検討します。		○	
特別支援教育特論	共生社会の実現をめざしたインクルーシブ教育の推進という視点から、特別支援教育の展開と概要、教育実践における現状や課題について、各資料・論文講読を通して、知見を深めます。		○	○
特別支援教育教育課程特論	特殊教育から特別支援教育への制度変更、インクルーシブ教育システム構築の流れについて、論文等を通して考察していきます。そして、学習指導要領を踏まえながら、障害のある児童生徒の教育課程の基本的な考え方を理解し、授業づくりや、自立活動の指導の進め方、個別の指導計画の作成等の現状や課題について検討していきます。 また、インクルーシブな学校づくりについて、各資料や論文講読を通して、考察していきます。		○	

必修:●　選択必修:▲　選択:○

授業科目	講義内容	クラスター		
		児童学	子ども心理学	学校教育学
特別支援教育コーディネーター特論	学校教育における重要な課題として不登校やいじめの問題、障害のある子どもたちへの支援の在り方が大きく問われています。この授業では精神医学の理論を踏まえ、障害ある子どもたちへの支援の在り方を考えることを通し、不登校やいじめを含めた支援を要する子どもたちを学校全体で支えていくときの鍵を握るコーディネーターの資質を身に付けます。		○	
心理的アセスメントに関する理論と実践	心理・教育的アセスメントの内容・方法・活用について総合的に理解し、「個別心理検査の基礎実習」を通して発達・教育評価の方法について学修します。また、学級・学校現場でこれらの知識を用いた教育評価・教育の改善方法について学びます。受講生による発表と実習(検査者と被験者になって心理検査を実施)に講義を加えながら授業を進めていきます。		○	
学習指導・進路指導演習	学習する意義、働く意義を見いだせる学習指導・進路指導(キャリア教育)の在り方を考えます。学力の現状、フリーター・ニートの増加と子どもの職業意識など、学習指導・教科指導に関する今日的課題を考究するとともに、「教科等の学習は将来の進路(キャリア)と密接に関係している」という視点に基づき両者の関係について検討します。		○	○
学校カウンセリング演習	教育に役立つカウンセリングについて、学校カウンセリングの概論と基本的な方法やスキルの実際について、演習を通して学びます。具体的な内容および方法は、個別面接の方法・構成的グループエンカウンターの原理と進め方・不登校の具体的支援の方法などについての演習を行います。		○	○
子ども発達教育学(ムーブメント教育・療法)特論	本講義は、M.Frostigのムーブメント教育理論を中心に、受講者の積極的な参加や問題意識を促すために、討論などを中心に進めます。また、発達教育学としてのムーブメント教育・療法を理解するために、わが国で幅広く取り入れられている実践について、ビデオ映像などを使いながら講義を行います。		○	
子ども発達教育学(ムーブメント教育・療法)演習	本演習は、ムーブメント教育・療法をより発達教育に位置付けるために、神経発達症児をはじめとする、様々な困難や課題を抱える子どもに視点を置いて、受講者による資料収集や問題分析により進めます。また、可能な限り実技を取り入れて、具体的な支援に役立てていきます。		○	
学校教育学研究特論	現在の小学校教育における教育課題や教師・児童・保護者・教育行政の状況などについて、小学校や教育委員会事務局などにおける調査や、各種文献・資料などの収集・調査・研究および分析を行うことにより、理解をいっそう深め、現在そして将来にわたって求められる学校教育の在り方と教師のあるべき姿などについて、多角的に考察します。			●
学校教育学研究方法論	この授業では、学校教育学研究を行うに当たって必要な研究方法論を研究します。文献研究と調査研究(質問紙調査、インタビュー、エスノグラフィーなど)の方法について、教育課程、教科等の指導法、生徒指導・教育相談、学校経営、教員の在り方の視点から講義と演習を行い、その方法を修得します。			●
学校教育学フィールド研究	併設校である初等部(小学校)をフィールドに、現場密着型で、教育学の知見と教育現場における実践との融合を図る研究を行います。特に、子どもの現状の正しい理解、アクティブ・ラーニングを実施するカリキュラムと授業の在り方、教育システムの設計・運営の在り方を探究し、幅広い見地から学校のマネジメントに参画できる資質を身に付けます。			●
教職特論	現在、教育現場で起きているさまざまな問題について、その状況や要因を日本とフィンランドの教育を比較考察し、その解決策を考えることを通じて、望ましい教師の在り方について考えることを目標とします。授業では、現在学校で問題となっていることに教師としてどう対応していけばいいのかを主体的に考えるようにしていきます。	▲		▲
教育基礎理論特論	本講義では、日本における教育像・教育政策の転換に大きな影響を与えているOECDの議論や調査を読み解きながら、世界が直面している教育の問題とは何なのかを考えます。OECDの資料からは、諸外国の就学前教育、初等教育の基本動向を概観し、日本の教育制度・教育実践のどこが変わり、どこが維持されていくべきなのかを議論します。	○		○

必修:●　選択必修:▲　選択:○

授業科目	講義内容	クラスター		
		児童学	子ども心理学	学校教育学
教育課程・指導法特論	カリキュラム研究や授業研究に関する国内外の文献を講読することで多様な研究手法に触れるとともに、実際に行われているユニークな教育実践の見学会に参加し、その在り方について討論します。	○		○
学校経営管理特論	スクールリーダーの視点から、教育の制度と経営、学校経営の理論(組織論、リーダーシップ論、危機管理)、学校経営の戦略と展開(学校経営ビジョン、経営戦略と学校経営計画、カリキュラム・マネジメント)、学校評価、人材育成などの基礎知識について概説します。また、学校経営の実践について紹介し、今後の学校経営を巡るさまざまな課題と展望を考察します。			○
教育社会学特論	教育社会学は、現代社会が直面する教育問題(貧困、格差問題、教育改革、学力問題、学歴と階層、いじめ、不登校、非行、ジェンダー、カリキュラムなど)を理解し、問題解決に向けて多角的に分析する経験科学です。この科学の「まなざし」に解釈的方法(言説研究・エスノグラフィー)が加わります。従来の研究成果を踏まえつつ定説に縛られず考察していきます。			○
近代教育思想史	近代教育思想を明治以降の日本における教育の思想と捉え、教育界に大きな影響を与えた思想の中から、特に実践を重要視したものを選び、その主要テクスト(抜粋)を吟味します。それぞれの時代背景を考えながら理解し、同時にまたその思想の限界を批判的に考察します。			○
現代授業研究Ⅰ群演習(国語・社会)	この授業では、小学校の国語科や社会科に関する基本理念や指導の在り方を実証的に学び、今日的課題や新しい指導方法などについて実践的に理解します。また、教材開発や学習過程、指導と評価の一体化などを目指した授業づくりや授業研究の在り方、今後の進め方などについて演習形式で学んでいきます。	○		○
現代授業研究Ⅱ群演習(算数・理科)	【算数】小学校算数科の目標を確認し、教材研究の方法について、①教材の系統、②意味と手続きの観点から検討するとともに、「深い学び」を促す学習指導案を作成し、模擬授業を実施することを通して、算数科教師としての力量を高め、実践研究の方法を身に付けます。 【理科】小学校理科の授業における成功の鍵は、教師の教材理解にあります。多彩な理科教材の特性を概観しつつ、教材研究から授業計画までを一単元に絞って徹底研究する素材として、メダカを利用します。好奇心に駆られた持続的観察、主体的・論理的な探究活動に児童を誘うために何を工夫したらよいか、実践的・創発的に研究します。	○		○
現代授業研究Ⅲ群演習(生活・家庭)	【生活】生活科新設の趣旨と狙い、誕生の歴史的経緯と背景から生活科の特質を考察します。また、生活科の授業の現状と課題を明確にし、具体的な実践を通して子どもの学びのプロセスと教師の支援の在り方、指導に生きる評価の考え方、学習指導法について、生活科の望ましい授業の在り方を研究します。 【家庭】「小学校家庭」の具体的な実践例から、「基礎的・基本的な知識および技能の定着を図り、よりよいくらしをつくりだす家庭科の学習指導」をテーマに、授業づくりの3つの力(設計・展開・評価)を研究していきます。			○
現代授業研究Ⅳ群演習(道徳・総合的な学習の時間・特別活動)	道徳・総合的な学習の時間・特別活動について学校現場の実践上の成果と課題を明らかにするとともに、課題解決の方向性を検討していきます。その検討を通し、学校教育における道徳・総合的な学習の時間・特別活動の教育的価値を探究していきます。その際、特に道徳教育との関連性において考察します。			○
現代授業研究Ⅴ群演習(外国語活動(英語))	小学校教育の必修「外国語活動(英語)」の指導方法等を学修するとともに、その実践演習を行います。特に英語音声学にも関心を持ち、小学校教育における「外国語活動(英語)」の中心的役割を担える教員を育成します。			○
小学校英語演習	実践的な観点から外国語活動の理念や指導法を理解するとともに、第二言語習得理論(臨界期、気づき、フィードバックなど)について学びます。国内外の文献講読を行いながら、効果的な指導法について考察することを通して、基礎的な統計分析も含めた研究手法の修得を目指します。			○
世界の教育・文化特論	現代の世界の教育改革の動向を踏まえながら、学校教育を中心とした特色ある教育について学びます。教育改革が各国の社会・経済状況と密接に関係していること、また、各国の教育の特徴が独自の文化を反映していることを理解するとともに、日本の教育との比較を通じて、その共通性と差異を考察します。			▲

取得可能な免許・資格

大学院で取得可能な免許・資格

- 小学校教諭専修免許状*1
- 幼稚園教諭専修免許状*1
- 特別支援学校教諭専修免許状*1（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）
- 公認心理師試験受験資格*2
- 学校心理士受験資格
- 臨床発達心理士受験資格
- 認定ムーブメント教育・療法上級指導者資格（ムーブメント教育教師・ムーブメント療法士）*3

*1「小学校教諭専修免許状」を取得するためには「小学校教諭1種免許状」の所持、「幼稚園教諭専修免許状」を取得するためには「幼稚園教諭1種免許状」の所持、「特別支援学校教諭専修免許状」を取得するためには「特別支援学校教諭1種免許状」の所持が前提です。
*2 大学の公認心理師養成カリキュラムで所定科目を履修し卒業していることが条件です。
*3 ムーブメント教育教師またはムーブメント療法士を資格申請時に選択。

公認心理師について

公認心理師は、保健医療、福祉、教育その他の分野で、心理学に関する専門的知識および技術をもって、心理に関する支援を要する者の心理状態の観察・分析や心理に関する相談・助言・指導その他の援助などを行う国家資格の専門職です。

大学院へ進学した場合の資格取得のルート

大学

- 受験資格取得に必要な科目を履修し単位を修得
- 80時間以上の心理実習

▼

鎌倉女子大学 大学院へ進学

- 所定科目を履修し単位を修得
- 合計450時間以上の心理実践実習

大学院所定科目

授業科目	学年	単位数
小児保健学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開を含む）	1	2
福祉分野に関する理論と支援の展開	1	2
教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	1	2
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	1	2
産業・労働分野に関する理論と支援の展開	1	2
心理的アセスメントに関する理論と実践	1	2
心理支援に関する理論と実践Ⅰ	1	2
心理支援に関する理論と実践Ⅱ	1	2
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	1	2
心の健康教育に関する理論と実践	1	2
［実習］心理実践実習Ⅰ	1	4
［実習］心理実践実習Ⅱ	2	6

［実習］
保健医療、教育、産業・労働、福祉、司法・犯罪の5分野の中から3分野以上での実習が必要となります。
本学では、主に以下の施設での実習を予定しています。

- 保健医療分野実習先
  大学病院児童精神科／こども専門病院／心療内科クリニック　他
- 教育分野実習先
  特別支援学校／併設校（初等部・中等部・高等部）／教育支援センター　他
- 福祉分野実習先
  児童養護施設／児童発達支援事業所／放課後等デイサービス事業所　他

▼

公認心理師試験受験資格を取得後、国家試験に合格

▼

公認心理師

活躍が期待される5分野と主な職場

保健医療、教育、産業・労働、福祉、司法・犯罪の5つの分野で、心理支援の専門職としての活躍が期待されています。

保健医療分野	教育分野	産業・労働分野	福祉分野	司法・犯罪分野
病院、診療所、地域の保健センターなど	学校、教育センターなど	企業・組織の相談室、就労支援機関など	児童、高齢者の福祉施設など	裁判所、少年院、少年鑑別所、警察など

学部教職課程の履修について

本学大学院では、大学院の学修に支障をきたさない範囲で、学部教職課程を履修することで、以下の教員免許状の取得が可能です。教育委員会への個人申請により、免許状を取得します。教員免許状のしくみは複雑ですので、出願前に必ずお問い合わせください。

学部教職課程履修により取得可能な教員免許状

- 小学校教諭1種・2種免許状*1*2
- 幼稚園教諭1種・2種免許状*1
- 特別支援学校教諭1種免許状*3（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）

*1 入学前の修得単位の状況によって、教員免許状取得の可否、校種・区分、履修単位数などが変わります。2年間で取得できない場合や、以下の履修単位数、履修料では取得できない場合もありますので、出願前にお問い合わせください。
*2 教員免許状を全く持っていない場合は、学部教職課程履修でも小学校教諭2種免許状になります。
*3 特別支援学校教諭1種免許状に関しては、基礎免許状（幼稚園・小学校・中学校・高等学校教諭免許状のいずれか）の所持が必要です。

入学前に所持している教員免許状の校種・区分や教職科目の履修状況により、取得できる教員免許状が異なります。

	現在所持している教員免許状	取得可能な教員免許状
上位免許の取得希望者	幼稚園教諭2種免許状	幼稚園教諭1種免許状
	小学校教諭2種免許状	小学校教諭1種免許状
隣接校種・他校種免許の取得希望者	幼稚園教諭専修・1種・2種免許状	小学校教諭1種・2種免許状、特別支援学校教諭1種免許状（いずれか）
	小学校教諭専修・1種・2種免許状	幼稚園教諭1種・2種免許状、特別支援学校教諭1種免許状（いずれか）
	中学校教諭専修・1種・2種免許状、高等学校教諭専修・1種免許状	小学校教諭1種・2種免許状、幼稚園教諭1種・2種免許状、特別支援学校教諭1種免許状（いずれか）
初めて教員免許状を取得する者	幼稚園・小学校・中学校・高等学校のいずれの教員免許状も持っていない	小学校教諭2種免許状または幼稚園教諭1・2種免許状 ※入学前の単位の修得状況により、取得が困難な場合があります。

学部教職科目履修料

	取得希望免許	履修単位数の目安	金額
上位免許の取得希望者	幼稚園教諭1種・小学校教諭1種免許状	8〜22	50,000円
隣接校種・他校種免許の取得希望者	小学校教諭1種免許状	34〜44	200,000円
	小学校教諭2種免許状	20〜28	150,000円
	幼稚園教諭1種・2種免許状	12〜18	70,000円
	特別支援学校教諭1種免許状	31	100,000円
初めて教員免許状を取得する者	小学校教諭2種免許状	44	200,000円
	幼稚園教諭1種・2種免許状	44〜46	200,000円
上記に当てはまらない場合	教員免許状は持っていないが、一部の教職科目の単位を修得している場合など	履修単位数が少ない場合	1単位11,000円

担当教員プロフィール・研究テーマ

★:研究指導教員　☆:研究指導補助教員　☆:授業担当教員

教授・哲学博士 ☆
福井 一光
哲学

専門領域は、特にカント、ヘーゲル、後期シェリング、ニーチェ、ヤスパース等を中心にした近・現代哲学。その研究内容は、以下の論考・翻訳に広く著されている。著書として、『ヒューマニズムの時代ー近代的精神の成立と生成過程』、『哲学と現代の諸問題』、『人間と超越の諸相』、『教育者のロゴス』、"Wege zur Vernunft bei Karl Jaspers"、『死生学入門』(共著)、『経験と言葉』(共著)他。訳書として、ヤスパース著『大学の理念』、クローナー著『自由と恩寵』、マール著『マハトマ・ガンジーー間文化論的に読み解く実像』、アスムス著『ナチ弾圧下の哲学者ーリヒャルト・クローナーの軌跡』(共訳)、ボルノー著『教育者の徳について』(共訳)他。論文として、和文・欧文論文等。高山岩男著作集を共同編集。

教授・博士(医学) ★
小国 美也子
小児科学、児童精神学

専門は、小児神経学、児童精神医学である。小児科医として子どもの診療に、大学院・大学の教員として「小児保健学」「小児精神医学」などの教育に携わってきた。研究テーマは、痙攣性疾患の遺伝、治療に関する研究、および発達障害の治療、支援に関する研究である。著書に『子どもの保健～健康と安全～』(共著)、『子どもの病気』(共著)、『ライフサイクルでみる女性の保健と健康』(共著)、『新版 子ども心理学の現在』(共著)、論文に「てんかん関連遺伝子」「若年性ミオクロニーてんかんの分子遺伝学」「慢性疾患を抱えた子供たちの思春期」「ケトン食療法の再検討」「てんかんと自閉症スペクトラム障害」等の和文論文の他、痙攣性疾患およびその治療に関する欧文論文などがある。

教授・博士(理学) ★
早石 周平
生態教育、理科教育

野生哺乳類を対象にフィールドワークとラボワークを行ってきた。また、奄美・沖縄地域の人と自然の関わりの歴史を明らかにする研究プロジェクトに参加してからは、自然資源、とりわけ生物資源の教育活用に関心がある。子どもが育つ地域の自然環境を教育資源として利活用し、人と自然の関わりを途切れさせない環境教育のあり方を研究している。地域の歴史を分析する手法として、統計書や旧版地図、空中写真を扱う。共著に、『島と海と森の環境史』(文一総合出版)、『奄美沖縄環境史資料集成』(南方新社)、『ソテツをみなおす ー奄美・沖縄の蘇鉄文化誌』(ボーダーインク)などがある。

教授 ★
伊藤 嘉奈子
臨床心理学、カウンセリング論

学校心理学が専門であり、学校臨床実践を研究テーマとしている。具体的には、スクールカウンセリングの役割、教室で行う心理教育プログラムの開発と効果、不登校支援や学習支援の効果などを研究している。また、イギリスで実践されている、ピア・サポートや予防教育プログラムの効果や、イギリスにおける教育心理士養成の在り方に関しても研究している。著者には、『新・心理学の基礎を学ぶ』(共著／八千代出版)、論文としては、「高等学校の新入生オリエンテーションにおける構成的グループエンカウンターの実践的研究」、「公立学校におけるスクールカウンセリングの実際と課題」などがある。

教授 ★
稲川 英嗣
教育行政、比較教育

国際的な教育政策課題の変動を、国際機関とりわけ OECD とユネスコの教育政策に注目して研究している。日本の教育政策の柱である生涯学習論も、近年の学力低下問題も国際機関での議論をベースに形成されてきた。現在はそうした教育政策の変動が学校経営のレベルにおいてどのような変化をもたらしているかを研究している。研究成果としては OECD の「教育政策分析」を翻訳した『世界の教育改革』シリーズ(明石書店)などがある。

教授 ★
久保内 加菜
社会教育学、博物館学

生涯学習の視点から、博物館をはじめとする社会教育施設や地方行政による教育・文化活動の支援のあり方を研究課題とする。現在は(1)地域の青少年の芸術文化活動を支える教育・文化行政及び民間事業者の動向、(2)学校博物館、学校図書館を介した博物館と学校の連携、(3)博物館のアウトリーチ事業及びアクセシビリティに関する調査研究を行う。単著に『新版 生涯学習時代の教育制度』(樹村房)、共著書に『博物館教育論:新しい博物館教育を描きだす』(ぎょうせい)、『子どもと教育環境』(大学図書出版)などがある。

教授・博士(教育学) ☆
福井 文威
政策科学、高等教育学

専門は、政策科学であり、特に高等教育政策、科学技術イノベーション政策を国際比較の観点から研究している。また、日本社会と西洋社会における寄付行動について調査研究を進めている。主な著作として『米国高等教育の拡大する個人寄付』(単著／東信堂、日本教育社会学会奨励賞、日本NPO学会賞優秀賞)、『日本の寄付を科学する:利他のアカデミア入門』(分担執筆／明石書店)、『Handbook of Higher Education in Japan』(分担執筆／Amsterdam University Press)、訳書としてアルトバック編著『新興国家の世界水準大学戦略』(共訳／東信堂)など。学術論文として、「Do Government Appropriations and Tax Policies Impact Donations to Public Research Universities in Japan and the USA?」(単著／The International Journal of Higher Education Research)、「A Phenomenological Study of Japanese Donors' Motivations in the Higher Education Context」(単著／Philanthropy & Education)などがある。

教授・博士(工学) ★
松田 広則
運動生理学、脳科学

生体反応とパフォーマンスから運動の身体への影響について研究している。運動によって起こる体内での反応について、電気的な生体情報を用いて中枢神経系などへの影響を調べている。また、学校教育現場で用いられている新体力テストを指標とし、体力の現状やその問題点、活用方法について調査している。著書に『教養としての健康・スポーツ』(共著／玉川大学出版部)、『発達心理学の展開ー子ども学入門ー身体と運動の発達』(共著／あいり出版)、論文には、「随意運動による体性感覚誘発電位に関する研究」、「新体力テスト項目の関連性の横断的分析」などがある。

教授 ★
鈴木 樹
教育学、カリキュラム論

専門は教育学で、その中でもカリキュラム研究・教育課程研究である。カリキュラム研究の立場から、(1) 特別活動における社会性の育成、(2) 安全教育・子どもの安全・安心、(3) 教科・総合的な学習の時間のカリキュラムと教材などについて研究を行っている。著書に、山口満編著『現代カリキュラム研究』(共著／学文社、2001年)、林尚示編著『特別活動』(共著／培風館、2012年)、林尚示編著『生徒指導・進路指導』(共著／一藝社、2014 年)、林尚示編著『特別活動ー総合的な学習(探究)の時間とともにー』(共著／学文社、2019年)、清水弘美他編著『今こそ特別活動！』(共著／一藝社、2022年)、論文に「ヒヤリ・ハットを用いた安全教育の実践が示唆するものー教育方法の一つとしての提案ー」(単著／『教材学研究』、第15巻、2004年)などがある。

教授 ★
遠山 孝司
教育心理学、教育工学、教師学

教育心理学の観点から子どもの教育について研究している。現在は大学での養成課程をスタートとする教師としての力量形成について研究している。著書に『子どもの発達と学校』(共著／ナカニシヤ出版)、『キーワード動機づけ心理学』(共著／金子書房)、『自己概念研究ハンドブックー発達心理学、社会心理学、臨床心理学からのアプローチー』(共訳／金子書房)、論文に「回想的な方法による親と教師の威厳ある養育・指導態度尺度の作成」、「教師の威厳ある指導態度と学校適応感、学習動機づけ、信頼感との関連」、「スポーツにおいて選手に失敗を繰り返させない指導者の叱り言葉とは―大学サッカー選手に対する言葉がけの検討ー」などがある。

教授・博士(人文科学) ★
藤澤 文
教育心理学、道徳心理学

道徳心理学に関心があります。具体的には社会認識の発達や変化を取り扱っています。近年は、メタバース(仮想空間)やVR(仮想現実)技術を用いて、実験をしています。刊行物には、『青年の規範の理解における討議の役割』(単著／ナカニシヤ出版)、『教職のための心理学』(編著／ナカニシヤ出版)、『新しい道徳教育』(共編著／東洋館出版社)、『モラルの心理学:理論・研究・道徳教育の実践』(共編著／北大路書房)、『道徳教育はこうすればもっと)おもしろい:未来を拓く教育学と心理学のコラボレーション』(共編著／北大路書房)、『エビデンスベースの教育心理学』(共編著／ナカニシヤ出版)などがあります。

准教授・博士(心理学) ★
石川 満佐育
学校心理学、発達臨床心理学、生徒指導・教育相談

学校心理学、発達臨床心理学を専門とし、教育現場の諸課題に関わる研究を行っている。特に、児童生徒学生の心理社会的適応の支援、教員養成における生徒指導上の諸課題への実践力向上に関する研究に従事している。主要業績には、『やさしくわかる生徒指導提要ガイドブック』(共著／明治図書)、『新・教職課程演習 第9巻 教育相談』(共著／共同出版)、『中学生・高校生におけるゆるし傾向性と外在化問題・内在化問題との関連の検討』(共著)、『関係性攻撃の観点からいじめの理解と対応』(単著)などがある。

准教授 ★
宮田 周平
臨床心理学、人間性心理学

専門は臨床心理学、人間性心理学。これまで小中学校スクールカウンセラー、公立教育相談室、大学保健センター、精神科クリニック等で臨床心理士として実践を行ってきた。臨床実践の中から臨床心理学・人間性心理学分野の研究を行っている。具体的には、人間性心理学的アプローチの一つであるフォーカシングの臨床適応に関する研究、心理検査の一つである樹木画の医療での活用に関する研究を行ってきた。著書に『フォーカシング・ハンドブック』(共著／北大路書房)、主要論文に、「Clearing a space をうつ病のクライエントに適応するための工夫」、「心療内科における樹木画試験の画像解析」(共著)がある。

教授 ☆
漆間 浩一
社会科教育

中学校教育や教育行政の経験をもとに、社会科教育を中心に、教育課程や教育方法、教育評価、学校経営などについて実践的な研究を行っている。また、教員を目指す研修の場である「横浜教師塾」の運営者としての経験から、教育課題に適切に対応できる実践的な教員養成や授業力向上のための授業研究の在り方についても研究を進めている。著書には、『社会科授業のコツ&アイデア40』(学事出版)、『中学校新地理のファックス教材集』(編著／明治図書)、『オーストラリア発見』(共著／豪日交流基金)、『評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料(中学校)』(共著／国立教育政策研究所、教育課程研究センター)などがある。

教授・博士(文化財) ☆
大河原 典子
美術教育、文化財保存学、日本画

専門領域は日本画制作である。研究テーマは自由制作のほか、日本画の技法材料の探求、文化財の模写、修理の研究。日本の伝統的な天然素材を生かした自然とのかかわりを大切にする図画工作教育に関心を持っている。また、作ることによって視覚や触覚を刺激し、感覚と体の動きをスムーズに関連付けることや、常識にとらわれない新しい発想が生まれるような教育の場を作る試みを行っている。展覧会出品は日本美術院院展、アートフェア東京 2009、個展(佐藤美術館、日本橋三越、高輪会)他多数。作品「うたかた」「桜月夜」(東京郷さくら美術館所蔵)、「曠暉」(東京佐藤美術館所蔵)、「平成の吉祥天像」(奈良 薬師寺所蔵)等多数。

講師・博士(学術) ☆
辻田 匡葵
知覚心理学、発達心理学

専門は知覚心理学、発達心理学。時間の知覚や多感覚統合に関する知覚現象について、心理物理実験によって解明を進めてきた。近年では、自閉スペクトラム症者の非定型な感覚知覚のメカニズムについて研究を進めている。また、自閉スペクトラム症に対するネガティブな態度についての質問紙研究も行っている。主要論文に、"Serial dependence in orientation is weak at the perceptual stage but intact at the response stage in autistic adults"、著書に『ステップアップ心理学シリーズ 発達心理学 こころの展開とその支援』(共著／講談社)などがある。

講師・博士(学術) ☆
初澤 宣子
教育心理学、学校臨床心理学

専門は教育心理学、学校臨床心理学です。小中学校スクールカウンセラー、公立小学校の教職員としての臨床や教育の実践経験をもとに、学際的な領域で研究に取り組んできました。具体的には、国語科文学教材の心理教育的活用に関する研究、全校型支援のツールとしてのスクールカウンセラー便りの研究を行っています。主要論文に「読書療法理論に基づく文学読書体験尺度作成の試み」(単著)、「教育課程に位置づけた心理教育の展望:国語科教育を兼ねた心理教育という視点から」(単著)、「1人1台端末を活用した『心の健康観察』の動向と学校心理学的観点からみた課題と展望」(共著)などがあります。

講師 ☆
吉村 拓馬
臨床発達心理学、障害者・障害児心理学

専門は臨床発達心理学および障害者・障害児心理学。地方自治体職員(心理職)を経て、地域療育センターの心理士として勤務。子どもの発達アセスメントや相談、関係機関へのコンサルテーションにあたっている。また、知能検査・発達検査、およびその活用に関する実践的研究を行っている。著書に『季刊・公認心理師』(共著／共同出版)、論文に「発達障害のある子どもの田中ビネーVの知能指数の特徴と補正方法」、「療育手帳判定における知能検査・発達検査に関する調査」、「全国の児童相談所における療育手帳制度に関する調査」、「青年期の『大人になりたくない心理』の構造と関連する諸変数の検討」がある。

教授・博士(教育学) ☆
神林 信之
数学教育学

数学教育学を研究対象としている。著書に、『教材構成の力を鍛える』(単著／晃洋書房)、『学びの数学と数学の学び』(共著／明治図書)、『教えたくなる数学 学びたくなる数学』(共著／考古堂)、『「深い学び」を可能にする算数科教育』(共著／一粒書房)、『数学的な見方・考え方を働かせ「深い学び」を実現する算数科の授業』(共著／一粒書房)などがある。論文に「数学的リテラシーを査定する PISA2003 調査設問の特徴」「算数・数学科教員養成プログラムのための対比と一般化の過程に焦点をあてた教材」「学校数学における『深い学び』概念の考察　―広義の数学化過程としての問題解決活動の観点から―」「金子忠雄の数学的価値論に関する研究」などがある。

教授・博士(医学) ☆
木下 博勝
医学、健康管理論

キレル子ども、虐待、子どもが関係する傷害事件を目にする機会が多い現代において、心身ともに未熟な子どもの発育に、正しい日常や育児環境が大きな影響を与える事は言うまでもありません。現在の日本は、先進諸外国同様に少子化の時代に突入し、また、女性の労働や晩婚化が進んで、地域や家庭での育児に対する形態も時代とともに変化してきています。講座では将来、職業として、親として、その他子どもとの係わりの中で、健康な体と健全なこころを持って発育する子どもの成長に寄与する、論理的実践的な知識の修得を目指します。

教授 ☆
小泉 裕子
保育学、幼児教育学

教師論的視点から、保育者養成を主眼とした保育内容指導法のカリキュラム研究、臨床経験に基づいた保育者の主観的世界を対象とするアイデンティティの形成過程に注目し、国際比較調査を継続。フィールド研究では、保育環境、保護者の心理とその支援、等を実践研究している。また地域連携プロジェクトとして「かまくらママ&パパ's カレッジ」「地方創生カレッジ」等で学生ボランティアを巻き込んだ子育て支援を行っている。主要論文に "Development of "ECEC Teacher's Identity" among Japanese College Students"、「保育現場におけるICT化の有効性について」、著書に『ヴィジブルな保育記録のススメ』(すずき出版)、『保育原理ー世界の保育者と共にー』(東洋館出版社)、『シードブック保育者論』(共著／建帛社)、『希望をつむぎだす幼児教育』(共著／あいり出版)などがある。

教授 ☆
田中 弘樹
英語音声学

日本の大学で 20年以上英語教育に携わってきたが、とりわけ、発音や聴き取りなど、学習者の音声面の力を伸ばすことに力を注いでさた。正しい発音を身に付けることで聴き取りの力も増して行くものである。まずは、普段無意識に行っている日本語の発音の仕方を知り、次に、目指す外国語(英語)の発音の方法を理解し、両言語の発音上の相違点、さらには、違いの度合いを意識しながら発音・聴き取りの練習をすることが重要になる。外国語で活動する際、教師の発音の影響力は非常に大きいものである。教師を目指す者として、明瞭で正確な発音を身に付けるよう心掛けよう。

教授 ☆
中島 朋紀
教育学、教育思想史

教育学・教育思想史を主な研究分野とし、「教師ー子ども」の相互主体性の問題に着目しながら、教育者と被教育者における教育的関わりの基本構造、教育関係の人間学的考察を研究テーマにしている。また、学校教育におけるフィールド的視点から、子どもの育ち・実態を教育実践・授業実践の中で捉え、人間形成と結びつけた道徳教育の研究、生活・生徒指導や学級経営に関する研究、授業研究、幼小連携のカリキュラム研究などに取り組んでいる。論文「ベスタロッチーにおける人間自然(Menschennatur)の概念ー『探究』を中心としてー」「鎌倉女子大学と初等部との連携研究の歩みー理論と実践のコラボレーションー」など。

教授 ☆
寳川 雅子
育児学、保育学(乳児)

保育・子育てについて、乳幼児精神保健の視点から研究を行っている。現在は、産後早期からの子育て支援、早期虐待予防に関して、特に『親子の絆づくりプログラム"赤ちゃんがきた！"』(愛称:BP プログラム)を活用し、子育て支援の実際と効果・課題について実施・調査・研究を行っている。著書に、『子どもの育ちと「ことば」』(共著／保育出版社)、『実践につなぐことばと保育』(共著／ひとなる書房)、『育児は育自』(単著／文芸社)、『親育ち支援プログラム導入ガイド神奈川県での実施に基づく効果的実施のための手引き』(神奈川県県民局次世代育成部次世代育成課)などがある。

教授・博士（理学）☆
保坂 和彦
生物人類学

専門は人類学。ヒトに最も近縁の動物であるチンパンジーを、1991年以来、マハレ山塊国立公園（タンザニア）の野生集団を対象に行動生態学の方法論により観察し、主に狩猟行動、食物分配、雄の生活史について研究してきた。あわせて、アフリカの自然環境の重要性について現地住民および日本・欧米の支援者に啓発する活動を続けている。研究の成果は、『Mahale Chimpanzees』（共編著／Cambridge University Press）などの学術書のほか、「Longitudinal changes in the targets of chimpanzee (*Pan troglodytes*) hunts at Mahale Mountains National Park」（共著／*Primates*）などの論文として公表した。2002年、鎌倉女子大学に着任後は、授業ゼミ・課外活動の中で、湘南地方の緑地・海岸を学生と踏査し、自然環境や生き物を野外観察するフィールドワーク教育を実践してきた。

教授 ☆
渡辺 宏章
作曲、音楽理論、音楽教育

西洋芸術音楽における管弦楽、室内楽、および日本の伝統音楽の創作・研究を行っている。特に近年は、子どもの心とふれあう音楽の創作と研究に力を注いでいる。著書として、『こどもたちへメッセージ2021<ピアノの調べ>（14人の作曲家による小品集）』（共著／カワイ出版）、『こどもたちへメッセージ2022（28人の作曲家によるピアノ小品集）』（共著／カワイ出版）、『こどもたちへメッセージ2023 外あそび編-1（28人の作曲家によるピアノ小品集）』（共著／カワイ出版）、『こどもたちへメッセージ2024 楽器編-2（28人の作曲家によるピアノ小品集）』（共著／カワイ出版）、『こどもの歌93 弾き歌いベスト曲集』（共著／カワイ出版）、『おうちでれんだん！ 家族で楽しむピアノ曲集』（共著／カワイ出版）などがある。

准教授 ☆
桐生 直幸
英語教育学

英語教育学・第二言語習得研究に基づきながら、諸外国の英語教育・教育改革動向、小学校英語（外国語活動）における教材・活動の分析、課題解決型言語活動による指導方法・教材の開発、中学生・高校生の語順習得などについて研究している。共著に『English Reader for College Students』、『DVD版 誰でもわかるTOEIC® TEST 英文法編』、『「フォーカス・オン・フォーム」アプローチによる英語指導法DVD』、論文に「ニュージーランド後期中等教育における NCEA 導入の成果と課題ー ESOL 教育に対する影響と日本の英語教育に対する示唆ー」、「ベルギー・フランダース地方の英語教育ー CLIL（クリル）という選択から日本の英語教育への示唆ー」（共著）などがある。

准教授 ☆
小林 博子
臨床発達心理学

臨床発達心理学的な見地から、児童相談所や大学学生相談室、心療内科クリニック等において心理士としての実践を行った。現在は、乳幼児期の子どもの適応行動と保育者の関係をテーマに研究を行っている。昨今、日本の保育現場で課題となっている「気になる子」（発達障害があると診断をされていないが、保育者から見て保育が難しいと感じている子）の支援に特に焦点を当て、その支援の在り方を検討している。著書には、『0・1・2 歳児の子育てと保育に活かすマザリーズの理論と実践』（共著／北大路書房）、『発達障害児のための SST』（分担翻訳／金剛出版）などがある。

准教授 ☆
榊原 久子
乳幼児発達心理学、地域母子保健

保育、乳幼児教育、地域母子保健について臨床発達心理学的視点から実践的研究を重ねている。幼稚園、保育園、子育て支援拠点、保健センターなどで保育職、心理職の両面から実践を行う。これまでの主な研究テーマは、ネウボラ（地域母子保健）、子どもの発育発達を保証する保育と環境構成について。著書に、『地方発！保育・子育て支援の新たな取り組み』（共著／ミネルヴァ書房）、『子どもの育ち合いを支えるインクルーシブ保育』（共著／大学図書出版）、論文に「保育者の実践記録からみえてくる保育と子どもの関わりにおける一考察〜子どもの最善の利益を考慮する保育実践を考える」、「保育環境と保育の専門性を活かした妊娠期からの切れ目ない支援」などがある。

准教授 ☆
佐藤 雅己
特別支援教育

特別支援教育における、児童生徒理解、授業づくり、教育課程、学級・学校経営などに関する基礎的研究を踏まえ、特に特別支援学校のセンター的機能、病弱教育における移行・復学支援、インクルーシブ教育等をテーマとして実践的研究に取り組んでいる。また、高等学校での勤務や、地域の学校の敷地内に校舎を設置している特別支援学校長などの経験を生かし、どの学校種に勤務しても、障害を正しく理解し、適切な指導・支援を実践できる教員の育成について研究を進めている。論文に「生徒・教員・地域の意識変容を目指した学校間交流を求めて」、「重度重複障害の児童生徒における視覚認知について」などがある。

准教授 ☆
髙須 正幸
社会福祉、障害福祉、児童福祉

知的障害児者や身体障害者および児童相談所一時保護所入所児童の生活支援、児童相談所での相談・措置、保育所や認定こども園の設置認可・補助事業などの行政事務に携わってきました。社会システムと個人の幸福の不整合を埋め権利擁護を進める仕組みである社会福祉について考察を深め、豊かな生活に反映していけるような知識習得を目指します。

准教授 ☆
田中 みか
インクルーシブ教育、特別支援教育

共生社会の実現をめざしたインクルーシブ教育の推進について実践的な研究を行っている。神奈川県教育委員会指導主事として、神奈川県の支援教育や、インクルーシブ教育を推進し、また小学校（通常の学級、通級による指導、特別支援学級）、特別支援学校での経験、特別支援学校長として「インクルーシブな学校づくり」に地域と共に取り組んだ経験をいかして、実践的研究に取り組んでいる。神奈川県教育委員会作成「かながわのインクルーシブ教育の推進」（リーフレット）、「インクルーシブ教育校内支援体制整備ガイドライン」等の作成に関わり、日本特殊教育学会において「インクルーシブ教育システムの推進の取り組み〜特別支援学校等の活動がインクルーシブ教育推進にどう寄与できるか〜」等の自主シンポジウムで話題提供を行った。

准教授 ☆
平井 佳江
国語科教育、教師教育

国語科教育を中心に、授業づくり、教育課程、学校経営等について実践的な研究を行っている。近年は、小学校長、教育委員会指導主事としての経験を生かし、特にカリキュラム・マネジメントや教員の力量形成について、研究を深めている。著書に、『伝え合う教室・学び合う教室を創る！』（単著／東洋館出版社）、『豊かな言語活動で確かな国語力を！言語活動別言語能力系統化』（共著／明治図書）、『授業力向上の鍵ーワークショップで授業研究を活性化ー』（共著／時事通信社）、『言語活動サポートブックーくりかえし指導したい44事例ー』（共著／時事通信社）、『授業をアクティブに変える〜言語活動を活性化する単元モデル〜』（編著／明治図書）などがある。

講師・博士（文学）☆
岡田 聡
哲学、ドイツ思想史

哲学を研究しています。ドイツ思想史を中心に、哲学とキリスト教の関係や、哲学のヨーロッパ・ローカル性について考えています。著書：『ヤスパースとキリスト教：20世紀ドイツ語圏のプロテスタント思想史において』（新教出版社、2019年）ほか；論文：„Philosophie und / oder Theologie der Existenz. Karl Jaspers und Fritz Buri: Stationen einer Begegnung“ In: Jahrbuch der Österreichischen Karl-Jaspers-Gesellschaft. 29, Wien, 2016, S. 161-179 ほか。翻訳：カール・ヤスパース『キリスト教の啓示に直面する哲学的信仰』（作品社、2025年）ほか。

講師 ☆
庄司 亮子
ムーブメント教育・療法、臨床発達心理学

専門は、障害のある子どもの発達支援と家族支援です。臨床発達心理学的な見地から、児童発達支援センターや地方自治体において心理士としての実践を積み重ねてきました。ムーブメント教育・療法による子育て支援やインクルーシブ保育に関する実践的研究を行っています。主要論文に「ムーブメント教育による家族参加型子育て支援に関する研究：養育者と支援者にもたらす影響に着目して」（単著）「低年齢児保育における動的環境に関する実践的研究：ムーブメント遊具を用いた遊びの広がりに注目して」（共著）などがあります。

講師 ☆
袴田 優子
ムーブメント教育・療法、インクルーシブ保育

障害のある子どもの療育、発達相談、教育相談の現場での臨床経験を基盤に、ムーブメント教育・療法を活用した発達支援や子育て支援などの実践的な研究に取り組んでいる。現在は、特別な支援ニーズのある子どもが、安心して充実した幼児期を過ごし、学齢期への円滑な移行が図れるよう、インクルーシブ保育の意義や実践方法についての研究をすすめている。著書に『発達障がい児の育成・支援とムーブメント教育』（共著/大修館書店）、『毎日の保育場面切り替えマニュアル』（共著/成美堂出版）、『保育者・教育者になる人のための特別支援教育ー当事者の声を聴くー』（共著/萌文書林）などがある。

講師 ☆
花岡 隆行
幼児教育学、保育学

専門は幼児教育学・保育学分野で、幼児教育のカリキュラムのあり方を研究するために、主にモンテッソーリ教育を対象として子どもへの教具の提供順序や教育理論について研究を行っている。近年は、モンテッソーリ教育を手掛かりとしつつ、広く保育の目的と子どもたちの学習経験という、幼児教育・保育の根本に関わる事項についても研究を深めている。主な研究成果に「モンテッソーリ教育における教具の意義ー系統性に焦点をあててー」、「モンテッソーリ教育における『活動』の意義ー『遊び』論に対置させての考察ー」の論文等がある。

講師 ☆
望月 紗綾香
法心理学

一都三県にてスクールカウンセラーを務め、また法律事務所との連携事業を通して離婚・面会交流・少年事件など法的問題を抱える家庭へ心理的支援を実践してきた。家庭裁判所への意見書作成や法的課題を抱えるクライアントへのカウンセリングを通し、法学分野に心理学的視点を導入する必要性を実感。法制度と臨床実践を統合する枠組みづくりに取り組む。クライアントの意思を尊重した紛争解決や支援の組み立てを実践し、法学と心理学の連携可能性について探求する。

学費・その他の納入金

	児童学研究科		春学期	秋学期
初年度納入金	学　費	入学金	380,000円	—
		授業料	320,000円	320,000円
		教育環境充実費	98,000円	98,000円
		実験実習費	90,000円	90,000円
	入学手続時納入金計		888,000円	—
	秋学期（10月）納入金計		—	508,000円
初年度納入金計			1,396,000円	
2年次納入金			1,101,000円	
総　計			2,497,000円	

※4月から9月までが春学期、10月から3月までが秋学期となります。授業料、教育環境充実費、実験実習費は1年間を2期に分けて納入していただきます。秋学期の納入時期等については入学後に別途連絡いたします。
※学費、その他の納入金には消費税は課税されません。
※同窓会終身会費（6,000円）は修了年度の秋学期に納入していただきます。
※臨床発達心理士受験資格、公認心理師受験資格に要する実習費は入学後に別途納入していただきます。
※入学に際し、学儀、寄付金等は一切徴収いたしません。
※鎌倉女子大学から進学する者は入学金の1/2（190,000円）が減額され、同窓会終身会費（6,000円）が免除されます。

奨学金

鎌倉女子大学の奨学金

鎌倉女子大学には、次の奨学金があります。給費（返還不要）による奨学金制度で学生生活をサポートしています。
在学期間中、本学の奨学金（給費）を重複して受けることはできません。

●フリージア奨学金（給費）

経済的理由により修学が困難であると認められ、かつ本学の建学の精神に則り、他の学生の模範となる学生を奨励します。

対象	大学院、大学、短期大学部の全学年
審査	申請に基づき、家計状況・学業成績・人物により審査します。
金額	年間 240,000 円（単年度限り）

●スペリオル奨学金（給費）

本学の建学の精神に則り、他の学生の模範となり、かつ優秀な成績を修めている学生を奨励します。

対象	大学院2年次、大学3・4年次、短期大学部2年次
審査	前年度秋学期までの成績優秀者を対象に審査します。
金額	年間 240,000 円（単年度限り）

●特待生奨学金（給費）

一般選抜Ⅰ期の合格者のうち、成績優秀者に対して1年間の授業料相当額（640,000円）が給費されます。一般選抜Ⅰ期のすべての受験者が特待生の選考の対象となります。

日本学生支援機構奨学金

独立行政法人日本学生支援機構による奨学金制度です。経済的理由により修学に困難がある優れた学生を対象にしています。

［貸与型］希望の月額を選択

第一種奨学金（無利子貸与）	50,000円、88,000円
第二種奨学金（有利子貸与）	50,000円、80,000円、100,000円、130,000円、150,000円

※最新の情報は、日本学生支援機構のホームページを確認してください。

授業料後払い制度

「授業料後払い制度」とは在学中の授業料を国が立て替え、返還は卒業後の所得に応じた「後払い」とする仕組みです。
本制度を利用する場合の審査基準は日本学生支援機構第一種奨学金と同様です。
なお、第一種奨学金を併用することはできません。
本制度の利用を希望する場合は、学生募集要項をご確認ください。

詳細は、文部科学省ホームページ「授業料後払い制度に関するQ＆A」を確認してください。

募集要項（概要）

	選抜方法		出願期間（消印有効）	試験日	合格発表日	入学手続締切日（消印有効）
入試日程	一般選抜 社会人特別選抜	Ⅰ期	2025年 11月17日（月）～ 12月2日（火）	2025年 12月7日（日）	2025年 12月11日（木）	2026年 一括 1月5日（月） 二段階 1次：1月5日（月） 最終：2月27日（金）
		Ⅱ期	2026年 1月21日（水）～ 2月2日（月）	2026年 2月5日（木）	2026年 2月16日（月）	2026年 2月27日（金）
	※WEB出願です。詳しくは、学生募集要項をご参照ください。					
募集人員	児童学研究科　児童学専攻（修士課程）　女子10名（内部推薦入試・社会人特別選抜による若干名を含む）					
試験会場	鎌倉女子大学　大船キャンパス					
入学検定料	30,000 円					

※入学手続時納入金は一括納入方式と二段階納入方式（1次締切日までに入学金、最終締切日までに残金を納入）の選択制となります。（Ⅱ期を除く）
※内部推薦入試における入学手続時納入金は一括納入方式のみとなります。

■一般選抜（特待生選抜を含む）

出願資格

次の各号のいずれかに該当する女子。
(1)大学を卒業した者および2026年3月卒業見込みの者
(2)大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者および2026年3月までに授与される見込みの者
(3)外国において、学校教育における16年の課程を修了した者および2026年3月修了見込みの者
(4)文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）に規定されている者
具体的には、以下の者を指します。
・教育職員免許法（昭和24年法律第147号）による幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、養護教諭、栄養教諭の専修免許状または一種免許状を有する者で22歳（入学時点）に達した者
(5)本学の個別入学資格審査により、学士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で22歳（入学時点）に達した者*1
＊1：学士の学位を有していないなど出願資格を満たさない場合、個別入学資格審査を受けて学士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められることにより大学院入試を受験することができます。個別入学資格審査を希望する者は、出願期間開始日の14日前までに必要な手続きをとってください。
(6)外国人留学生においては、日本語能力試験N1以上に合格している者
※日本語能力試験「認定結果及び成績に関する証明書」（コピー不可）を提出してください。

募集人員　児童学研究科　児童学専攻（修士課程）　女子10名（内部推薦入試・社会人特別選抜による若干名を含む）

選考方法　●書類審査　●筆記試験…外国語（英語）*2／専門科目　●研究調書に基づく面接*3を総合して判定する。
＊2：外国語（英語）の試験の際には、本学が定める辞書を貸与する。　＊3：面接は第1面接、第2面接の2回行う。

試験科目および試験時間

	試験科目	試験時間
筆記試験	外国語（英語）	60分
	専門科目	60分
面接試験	研究調書に基づく面接	—

特待生選抜…　一般選抜Ⅰ期の合格者のうち、成績優秀者に対して1年間の授業料相当額（640,000円）が給費されます。一般選抜Ⅰ期のすべての受験者が特待生の選考の対象となります。

■社会人特別選抜

出願資格

最終教育機関を修了後、3年以上の社会経験（専業主婦を含む）があり、次の各号のいずれかに該当する女子。
(1)大学を卒業した者
(2)大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者
(3)外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
(4)文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）に規定されている者
具体的には、以下の者を指します。
・教育職員免許法（昭和24年法律第147号）による幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、養護教諭、栄養教諭の専修免許状または一種免許状を有する者で22歳（入学時点）に達した者
(5)本学の個別入学資格審査により、学士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で22歳（入学時点）に達した者*4
＊4：学士の学位を有していないなど出願資格を満たさない場合、個別入学資格審査を受けて学士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められることにより大学院入試を受験することができます。個別入学資格審査を希望する者は、出願期間開始日の14日前までに必要な手続きをとってください。
(6)外国人留学生においては、日本語能力試験N1以上に合格している者
※日本語能力試験「認定結果及び成績に関する証明書」（コピー不可）を提出してください。

募集人員　児童学研究科　児童学専攻（修士課程）　女子若干名

選考方法　●書類審査　●筆記試験…専門科目　●研究調書に基づく面接*5を総合して判定する。　＊5：面接は第1面接、第2面接の2回行う。

試験科目および試験時間

	試験科目	試験時間
筆記試験	専門科目	60分
面接試験	研究調書に基づく面接	—

入学試験に関する問い合わせ先　入試・広報センター　TEL.0467-44-2117（直通）

■科目等履修生

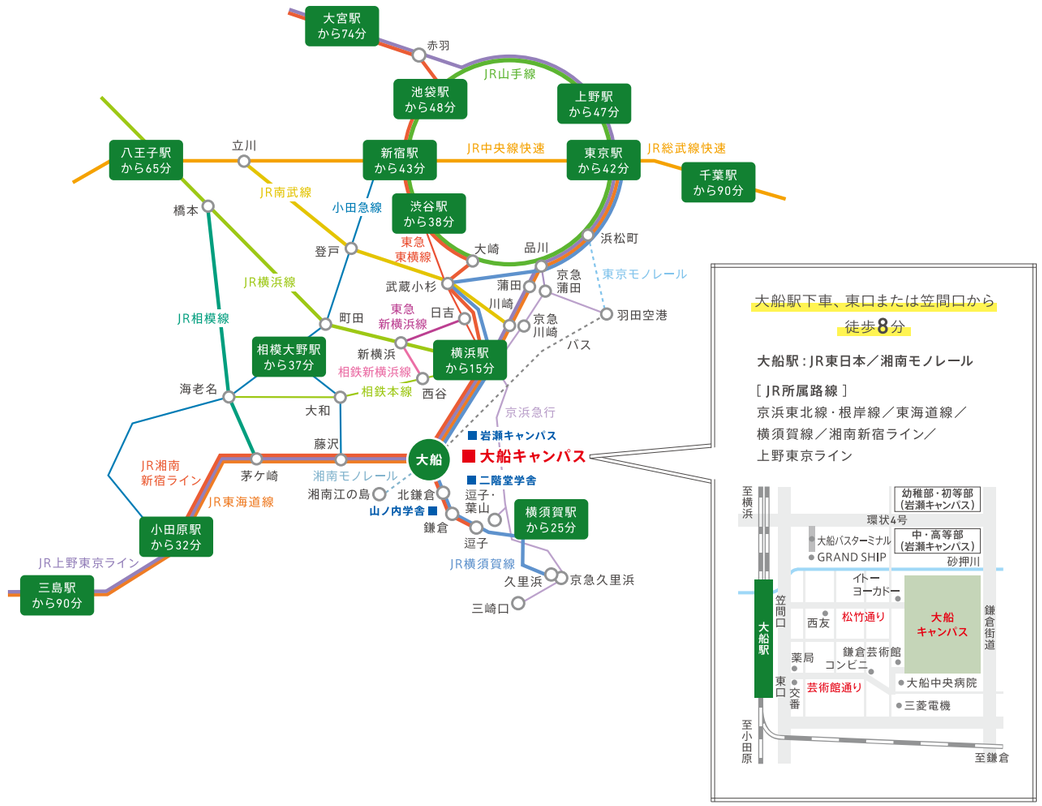
研究科の教育に支障のない場合に限り、選考の上、科目等履修生として授業科目を履修することができます。

受講期間	2026年度　春セメスター　2026年4月～2026年9月　秋セメスター　2026年9月～2027年3月
出願資格	次の各号のいずれかに該当する女子。 (1)大学を卒業した者および2026年3月卒業見込みの者 (2)大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者および2026年3月までに授与される見込みの者 (3)外国において、学校教育における16年の課程を修了した者および2026年3月修了見込みの者 (4)文部科学大臣の指定した者
募集人員	女子若干名
選考方法	書類審査および面接試験

科目等履修生に関する問い合わせ先　教務部学務課　TEL.0467-33-7550（直通）

Access & Map

※大船駅までの目安時間を表記。乗車時間帯によって異なります。



2025年6月発行

※本冊子に登場する学生の学年、修了生の所属・肩書などについては、取材時（2024年度）のものです。
※本冊子に掲載している教員やカリキュラムなどは2025年4月時点の情報であり、変更になる可能性があります。